

2026年12月期第2四半期（中間期） 決算説明資料

株式会社アシックス 2026年8月14日



各種サービス 新規ご登録はこちらから



OneASICS会員



個人投資家向け
メール配信



ASICSアプリ
(iPhone)



ASICSアプリ
(Android)

INDEX

1. 決算サマリー等
2. 連結業績の概要
3. カテゴリー別連結経営成績
4. 地域別連結経営成績
5. 連結財政状態
6. 連結業績予想
7. IRカレンダー

Appendix

2026年通期業績の上方修正

(単位：億円)	2026年2月発表		今回発表	増減率	為替影響除く増減率	対前年増減率
売上高	9,500	→	10,500	+10.5%	+5.3%	+29.5%
営業利益	1,710	→	1,950	+14.0%	+8.9%	+36.8%
営業利益率	18.0%	→	18.6%	+0.6ppt	-	+1.0ppt
当期純利益	1,100	→	1,200	+9.1%	-	+21.6%

上方修正のポイント

ポイント 1

上期の好調な実績に加え、下期についてもスポーツスタイル及びオニツカタイガーが引き続き好調に推移する見込みであり、売上高及び各段階利益について2026年通期の業績予想を上方修正。

ポイント 2

その結果、売上高は為替影響を除いても1兆円を突破、当期純利益は初の1,000億円超を見込むなど、過去最高業績を更新する見通し。

ウォーキング事業のグローバル成長に向けて

- ・ 「ASICS Walking」をプレミアムブランドとして再構築するため、一貫したブランディングを実行。
- ・ ウォーキング事業のグローバル成長に向けて、事業運営体制を再編。

➤ プレミアムブランドの確立

- ・ ASICS Walking独自の高付加価値でプレミアムな製品、体験価値を創出。
- ・ 一貫したブランド価値を訴求するため、直営店舗デザインを順次刷新。
- ・ 国内事業を再構築し、メンバーシッププログラムを「OneASICS」に統一。

➤ グローバル展開

- ・ 2026年後半から中華圏等で海外展開を開始。

➤ 組織・体制の再構築

- ・ アシックス商事株式会社（以下、アシックス商事）よりウォーキング事業を2027年1月1日付で株式会社アシックス／アシックスジャパン株式会社へ移管し、アシックス商事の全事業を終了したうえで、解散及び清算する方針を決定。
- ・ アシックス商事に勤務する社員に、個々の意思を尊重した特別転身支援プログラムを実施（本件に関する費用等を特別損失に70億円計上）。

商品ラインナップ

SPORTS WALKING

- ・ WELLNESS WALKER



DAILY & TRAVEL

- ・ PEDALA



DRESS & BUSINESS

- ・ RUNWALK
- ・ texcy luxe



ASICS Walking店舗



ASICS WALKING帝国ホテルプラザ東京



海外の店舗イメージ

INDEX

1. 決算サマリー等
2. 連結業績の概要
3. カテゴリー別連結経営成績
4. 地域別連結経営成績
5. 連結財政状態
6. 連結業績予想
7. IRカレンダー

Appendix

連結損益計算書

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)	FY25Q2 実績	FY26Q2 実績	前年同期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	4,027	5,344	+1,317 +32.7%
売上総利益	2,284	3,062	+778 +34.1%
売上総利益率	56.7%	57.3%	+0.6ppt
販管費	1,473	1,858	+385 +26.1%
販管費率	36.6%	34.8%	△1.8ppt
人件費	440	532	+92 +21.0%
広告宣伝費	278	361	+83 +29.9%
広告宣伝費率	6.9%	6.8%	△0.1ppt
賃借料	66	73	+7 +10.5%
減価償却費	110	155	+45 +41.2%
その他経費	579	737	+158 +27.3%
営業利益	811	1,204	+393 +48.5%
営業利益率	20.1%	22.5%	+2.4ppt
経常利益	786	1,165	+379 +48.3%
特別損益	21	△49	△70
親会社株主に帰属する 中間純利益	536	821	+285 +53.3%

	FY25Q2 実績	FY26Q2 実績	増減額	増減率
海外売上高	3,256	4,388	+1,132	+34.7%
海外比率	80.9%	82.1%	-	+1.2ppt

為替影響除く	連結売上高増減	+885	+22.0%
	連結営業利益増減	+306	+37.7%
	連結純利益増減	+207	+38.7%

平均為替レート（円）	FY25Q2 実績	FY26Q2 実績
1ドル	148.98	158.23
1ユーロ	162.54	184.65
1人民元	20.55	23.02

2026年12月期 第2四半期（中間期） 連結決算サマリー（1）

① **連結**：全カテゴリー、全地域で増収（前年同期比+32.7%）。増収に加え販売価格の適正化による粗利益率の改善もあり、営業利益は増益。
営業利益（前年同期比+48.5%）、中間純利益（前年同期比+53.3%）ともに過去最高。

- 売上高：5,344億円（前年同期比：+32.7%、為替影響除く：+22.0%）
- 粗利益率：57.3%（前年同期比：+0.6ppt）
- 営業利益：1,204億円（前年同期比：+48.5%） / 営業利益率：22.5%（前年同期比：+2.4ppt）
- 中間純利益：821億円（前年同期比：+53.3%）

② **カテゴリー業績**：全カテゴリーで増収増益。特に、スポーツスタイルは80%超の大幅増収。

- パフォーマンスランニング：全地域で増収増益。特に、北米、欧州、中華圏、東南・南アジアで増収。
売上高：前年同期比+19.3%（為替影響除く+8.2%）、カテゴリー利益率：26.3%（前年同期比+1.1ppt）
- スポーツスタイル：全地域で増収増益。特に、北米は約90%、欧州は100%超の大幅増収。
売上高：前年同期比+83.0%（為替影響除く+65.6%）、カテゴリー利益率：34.0%（前年同期比+3.3ppt）
- オニツカタイガー：全地域で増収増益。特に、インバウンド需要の強い日本に加えて、欧州及び中華圏で大幅増収。
売上高：前年同期比+35.9%（為替影響除く+29.4%）、カテゴリー利益率：39.7%（前年同期比+0.6ppt）

2026年12月期 第2四半期（中間期） 連結決算サマリー（2）

① **地域業績**： 全地域において増収増益を達成、営業利益率では特にアシックスジャパン、北米、欧州、東南・南アジアで向上。

- アシックスジャパン：オニツカタイガーのインバウンド好調継続により粗利益率が良化し営業利益率が更に向上。
インバウンド売上高は308億円となり、前年同期の216億円から大幅増収。
売上高：前年同期比+23.8%、営業利益率：33.4%（前年同期比 +3.4ppt）
- 北米：特にスポーツスタイルでの大幅な増収及び粗利益率の良化もあり営業利益率が大幅に向上。
売上高：前年同期比+28.1%（為替影響除く+19.6%）、営業利益率：20.1%（前年同期比 +6.2ppt）
- 欧州：特にスポーツスタイル、オニツカタイガーでの大幅な増収及び販管費のコントロールにより営業利益率は上昇。
売上高：前年同期比+46.4%（為替影響除く+29.7%）、営業利益率：20.8%（前年同期比+2.1ppt）
- 東南・南アジア：主にパフォーマンスランニング、コアパフォーマンススポーツ及びオニツカタイガーが大幅増収。
売上高：前年同期比+33.9%（為替影響除く+25.9%）、営業利益率：24.2%（前年同期比+1.1ppt）

② **在庫管理**： 大幅な増収にも関わらず、継続的な管理強化により棚卸資産は前期末比42億円減少（為替影響除くと83億円減少）。

③ **株主還元**： 上方修正を踏まえ、中間配当金は前回予想比2円増配の20円に決定。期末配当金は前回予想比4円増配の24円を見込む。
年間配当予想は前回予想38円から6円増配の44円に。

愛知・名古屋2026に向けたアシックスの取組み

- ・ 約200名のアシックスサポート選手が出場予定。
- ・ 2026年を「Year of ASIA」と位置付けており、第5回アジアパラ競技大会(2026/愛知・名古屋)のスポーツアパレル オフィシャルパートナーとして大会をサポートし、インクルーシブな未来の実現を目指す。
- ・ パラスポーツへの理解及びアシックスの取組みに関する認知拡大に繋がる活動を実施予定。

活躍が期待される選手

男子
5000m/10000m



Gulveer Sigh (インド)
(グルヴィール・シン)

男子テニス



綿貫 陽介 (日本)

パラ陸上F37
男子円盤投



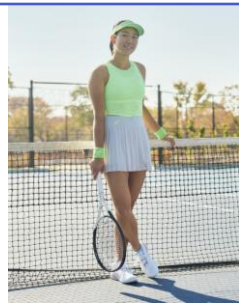
新保 大和 (日本)
※アシックス社員パラアスリート

女子マラソン



Shitaye Eshete (バーレーン)
(シタイエ・エシェテ)

女子テニス



内島 萌夏 (日本)

パラ陸上T64男子
100m/200m/走幅跳



田巻 佑真 (日本)
※アシックス社員パラアスリート

第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）での取組み

1. ボランティアウェア等の提供

- ・ 大会スタッフやボランティアが使用するウェア、ビブス等を提供。

2. ASICS Inclusive Cafe (アシックスハウス) の運営

- ・ 障がいのある社員、パラアスリートと共にアスリートや大会関係者に向けたホスピタリティ施設を運営。



アシックスハウス
(イメージ)

3. 名古屋市瑞穂公園陸上競技場 場外ブース出展

- ・ アシックスの社員パラアスリートや障がい者採用の取組みのご紹介や、パラスポーツを体験できるアクティベーションを実施予定。

4. 社員ボランティアの派遣

- ・ 日本・アジアの13か国66名が社員ボランティアとして活動予定。

イノベーションに関する取り組み

- ・ 2025年12月に北米、2026年6月に欧州に研究拠点を設置。
- ・ グローバルにR&Dネットワークを構築し、イノベーション創出の基盤を強化。

グローバルのR&Dネットワーク



**ASICS Institute of Sport Science
America LLC (ISS America)**
(2025年12月発表)



- ・ ミシガン大学とのパートナーシップを締結。
- ・ 同大学がもつ世界トップクラスの総合研究力を基盤に、アスリートのパフォーマンスに寄与するイノベーションを創造。

**ASICS Institute of Sport Science
Europe (ISS Europe)**
(2026年6月発表)



- ・ スポーツに関する専門的な知見を有する研究施設「HumanFab」と戦略的パートナーシップを締結。
- ・ CPSカテゴリーを中心に、現地アスリートへのテスト等を実施し、欧州地域の戦略的パートナーと連携。

デジタルに関する取組み

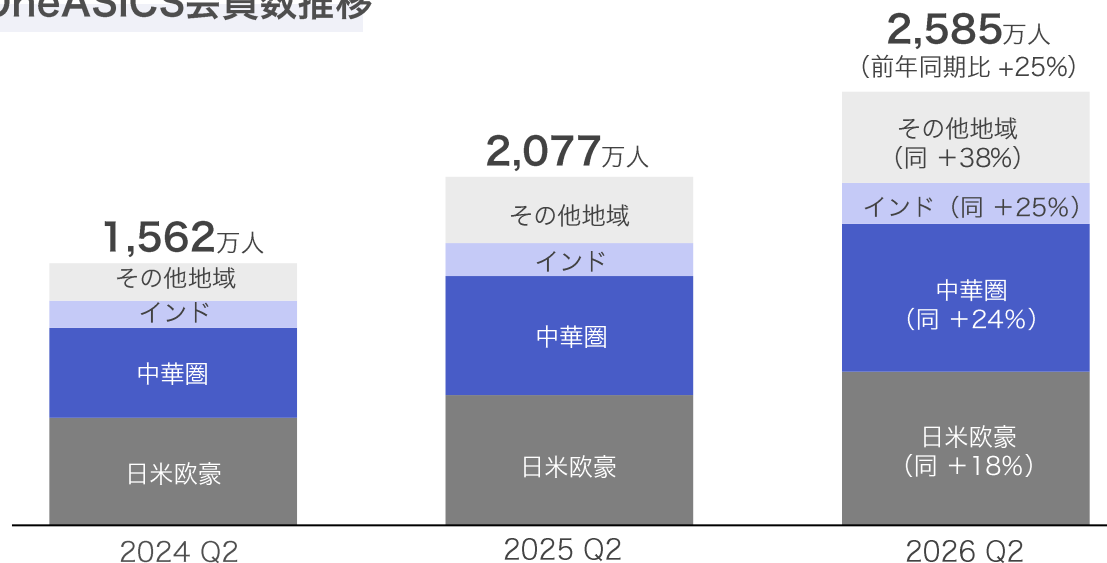
- OneASICS会員限定のイベントとして開催したTokyo : Speed : Raceでは、デジタル体験を拡充し、OneASICS会員との接点を拡大。
- 新たにグループ会社となったThaiRunのフォトサービスを活用し、グループアセットを活用した付加価値の創出を早期に実現。

EC売上高の推移

	2024年Q2	2025年Q2	2026年Q2	25Q2 vs 26Q2
EC 売上高	671億円	758億円	939億円	+23.9%*

*戦略的な絞り込みを行っている北米を除くと+34.8%の成長

OneASICS会員数推移



Tokyo : Speed : Raceに関する取組み

- トップアスリートから子どもまで、さまざまなレベルのランナーが自分らしく走る喜びを体験できるレースイベントを開催。
- RUNNETでのエントリー者約1,700名のうち、20%がOneASICSの新規会員。
- 参加種目に応じたパーソナライズコミュニケーションに加え、Runkeeperによるトレーニング支援、AIサービスのRunConciergeによるイベント情報の提供など、自社デジタルアセット等を活用したシームレスな体験を提供。
- 参加特典としてThaiRunのフォトサービスを通じて写真を無料で提供。



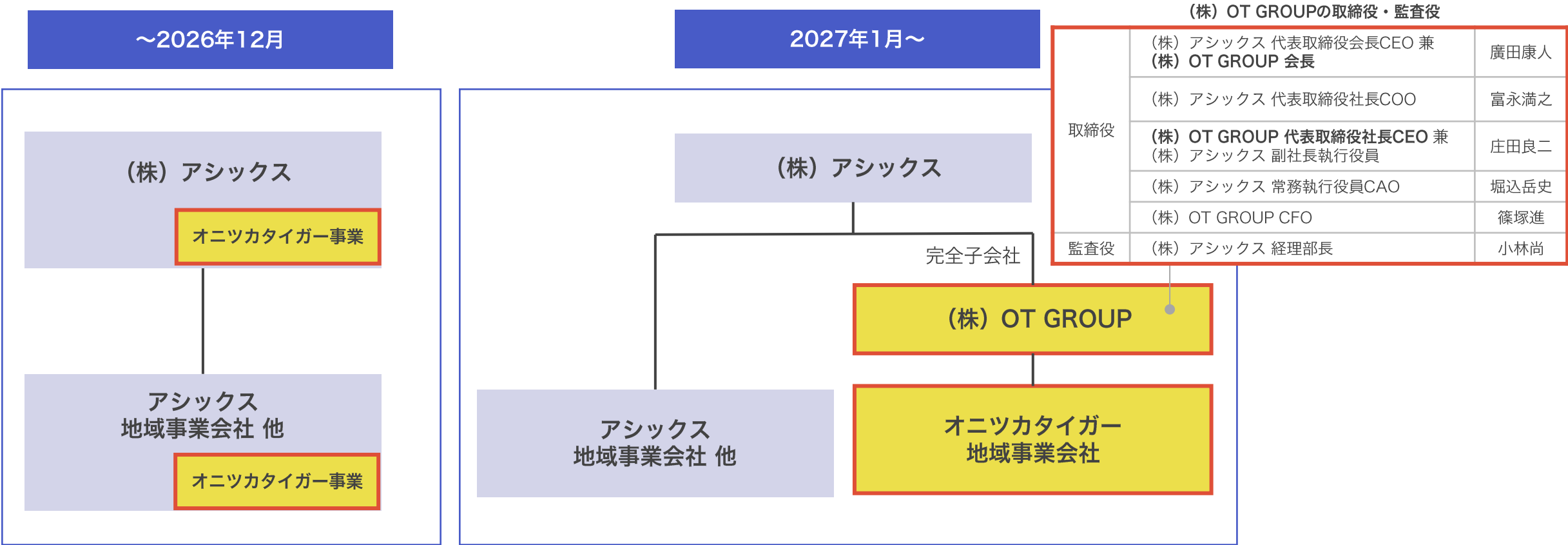
Tokyo : Speed : Race
における親子ランの様子



AIによって識別されたランナーの写真

オニツカタイガー分社化（2027年1月～）

- オニツカタイガーの更なる成長とより洗練されたラグジュアリーライフスタイルブランドとしての確立に向け、独立性の高い経営体制へ移行させることで意思決定の迅速化を図る。
- 研究開発や知的財産などグループの競争力の源泉は引き続き共有。



INDEX

1. 決算サマリー等
- 2. 連結業績の概要**
3. カテゴリー別連結経営成績
4. 地域別連結経営成績
5. 連結財政状態
6. 連結業績予想
7. IRカレンダー

Appendix

連結損益計算書

再掲

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)	FY25Q2 実績	FY26Q2 実績	前年同期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	4,027	5,344	+1,317 +32.7%
売上総利益	2,284	3,062	+778 +34.1%
売上総利益率	56.7%	57.3%	+0.6ppt
販管費	1,473	1,858	+385 +26.1%
販管費率	36.6%	34.8%	△1.8ppt
人件費	440	532	+92 +21.0%
広告宣伝費	278	361	+83 +29.9%
広告宣伝費率	6.9%	6.8%	△0.1ppt
賃借料	66	73	+7 +10.5%
減価償却費	110	155	+45 +41.2%
その他経費	579	737	+158 +27.3%
営業利益	811	1,204	+393 +48.5%
営業利益率	20.1%	22.5%	+2.4ppt
経常利益	786	1,165	+379 +48.3%
特別損益	21	△49	△70
親会社株主に帰属する 中間純利益	536	821	+285 +53.3%

	FY25Q2 実績	FY26Q2 実績	増減額	増減率
海外売上高	3,256	4,388	+1,132	+34.7%
海外比率	80.9%	82.1%	-	+1.2ppt

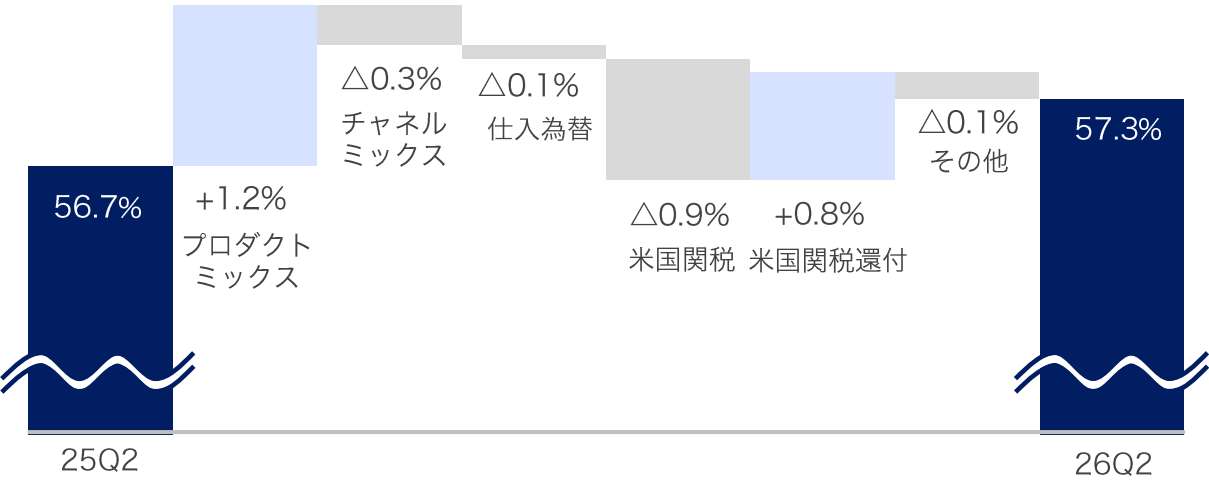
為替影響除く	連結売上高増減	+885	+22.0%
	連結営業利益増減	+306	+37.7%
	連結純利益増減	+207	+38.7%

平均為替レート（円）	FY25Q2 実績	FY26Q2 実績
1ドル	148.98	158.23
1ユーロ	162.54	184.65
1人民元	20.55	23.02

粗利益率、営業利益率について

- WS比率の高いSPSの成長加速により連結全体に占めるWS比率が上昇し、連結粗利益率にネガティブに影響。
- 一方で、WSチャンネルにおいては販売価格が卸値になるため粗利益率は低いが、固定費負担は小さいため営業利益率はDTCと同水準。

粗利益率増減 要素別分析

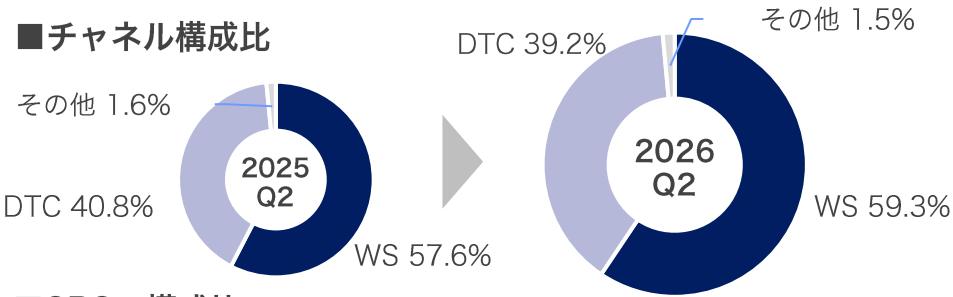


粗利益率の主な増減要素

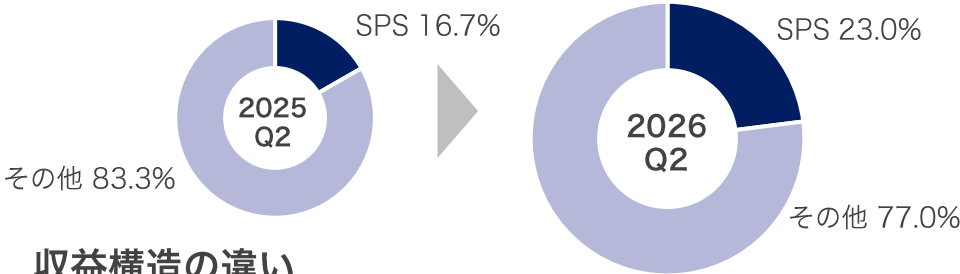
プロダクトミックス	販売商品の構成（価格帯、収益性等）
チャンネルミックス	（右表参照）
仕入為替	工場からの製品仕入に係る為替レート
その他	フレイト、在庫適正化等

チャンネル構成比、SPSの構成比率

■チャンネル構成比



■SPSの構成比



収益構造の違い

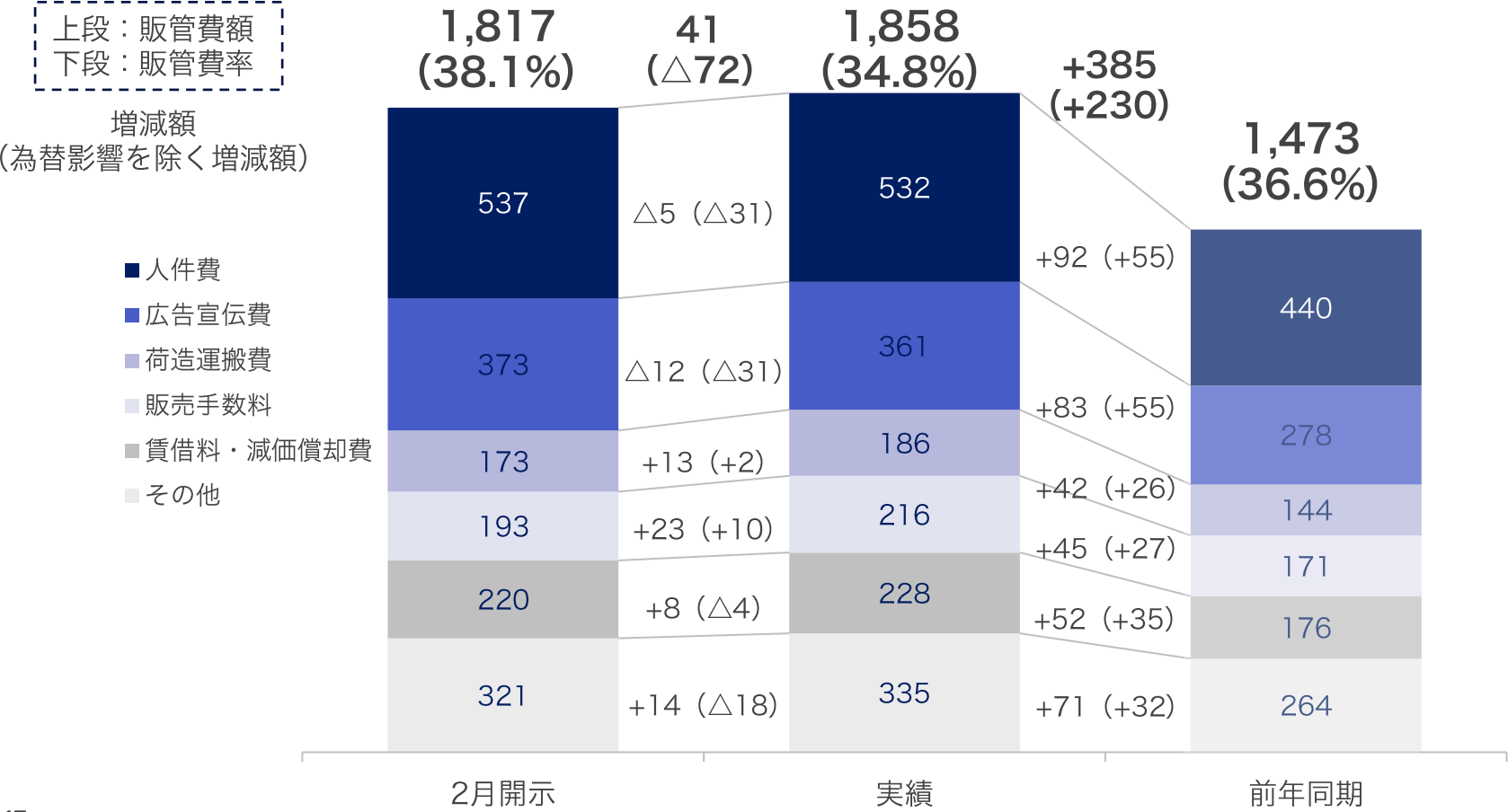
	WS	DTC
販売価格	卸売価格	小売価格
粗利益率	49.5%	69.2%
販管費率	27.2%	45.2%
営業利益率	22.3%	23.9%

（Q2累計）

販管費の状況

- ・ 2月開示比は、増収に加え、主に広告宣伝費における施策実行時期の調整もあり、売上高販管費率は3.3ppt低下。
- ・ 前年同期比は、為替影響（+155億円）を除いて230億円の増加、販管費率は1.8ppt低下の34.8%。
- ・ 販管費増加の主要因はプロフィットシェアなどの人的資本投資の強化による人件費、欧州の好調な事業モメンタム維持や米国でのランニング専門店の販売強化に向けた広告宣伝費、及び売上連動コストの増加。

（単位：億円）



平均為替レート (円)	FY26Q2 2月開示	FY26Q2 実績	FY25Q2 実績
1ドル	150.00	158.23	148.98
1ユーロ	170.00	184.65	162.54
1人民元	21.00	23.02	20.55

連結損益計算書（3ヶ月期間）

（単位：億円）

第2四半期 (4-6月)	FY25Q2 実績	FY26Q2 実績	前年同期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	1,944	2,642	+698 +35.9%
売上総利益	1,121	1,587	+466 +41.6%
売上総利益率	57.6%	60.1%	+2.5ppt
販管費	755	990	+235 +31.2%
販管費率	38.8%	37.5%	△1.3ppt
人件費	221	278	+57 +26.0%
広告宣伝費	145	182	+37 +25.7%
広告宣伝費率	7.4%	6.9%	△0.5ppt
賃借料	29	50	+21 +73.1%
減価償却費	58	80	+22 +39.8%
その他経費	302	400	+98 +32.5%
営業利益	366	597	+231 +63.1%
営業利益率	18.8%	22.6%	+3.8ppt
経常利益	353	578	+225 +64.0%
特別損益	21	△80	△101
親会社株主に帰属する 四半期純利益	220	356	+136 +62.1%

	FY25Q2 実績	FY26Q2 実績	増減額	増減率
海外売上高	1,575	2,171	+596	+37.8%
海外比率	81.0%	82.2%	-	+1.2ppt

為替影響除く	連結売上高増減	+445	+22.9%
	連結営業利益増減	+181	+49.5%
	連結純利益増減	+87	+39.5%

四半期推移	Q1	Q2	Q3	Q4
売上高	2,702	2,642		
営業利益	607	597		
営業利益率	22.5%	22.6%		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	465	356		

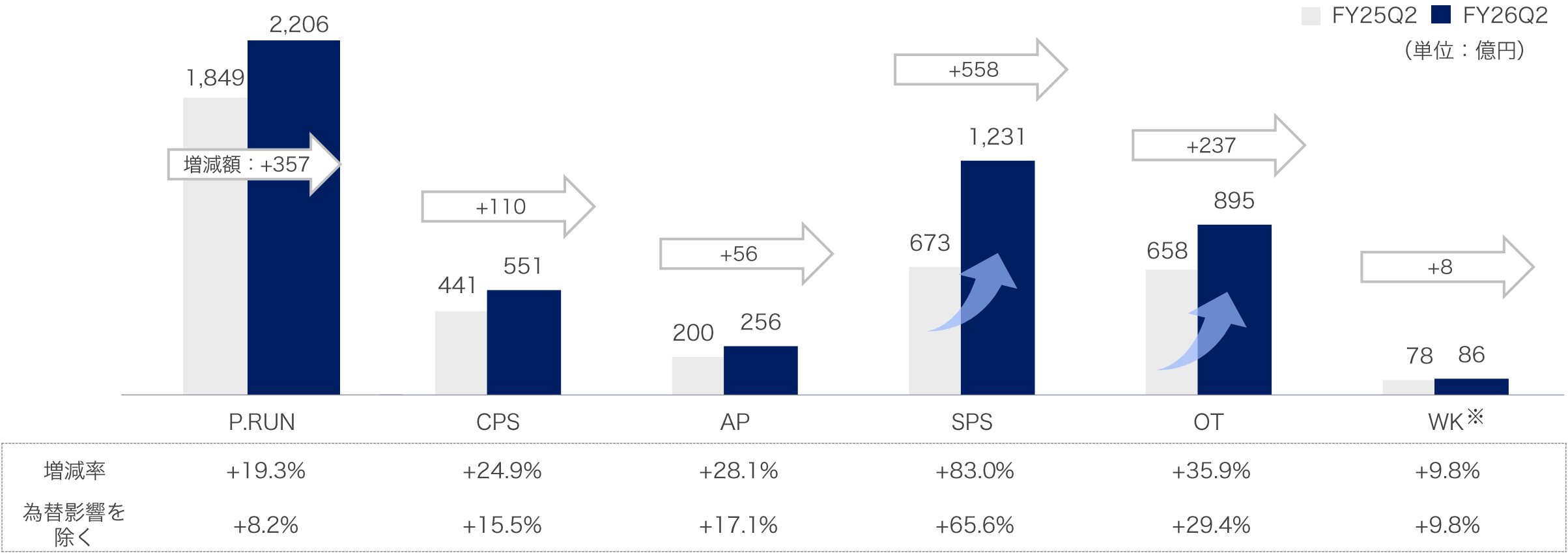
INDEX

1. 決算サマリー等
2. 連結業績の概要
- 3. カテゴリー別連結経営成績**
4. 地域別連結経営成績
5. 連結財政状態
6. 連結業績予想
7. IRカレンダー

Appendix

カテゴリー別連結売上高

- P.RUNは全地域で増収。特に、北米、欧州、中華圏におけるWSチャンネルが好調により大幅増収。
- SPSは全地域で増収。特に、北米は約90%、欧州は100%超の大幅増収。
- OTは全地域で増収。特に、インバウンド需要の強い日本に加えて欧州及び中華圏において大幅増収。



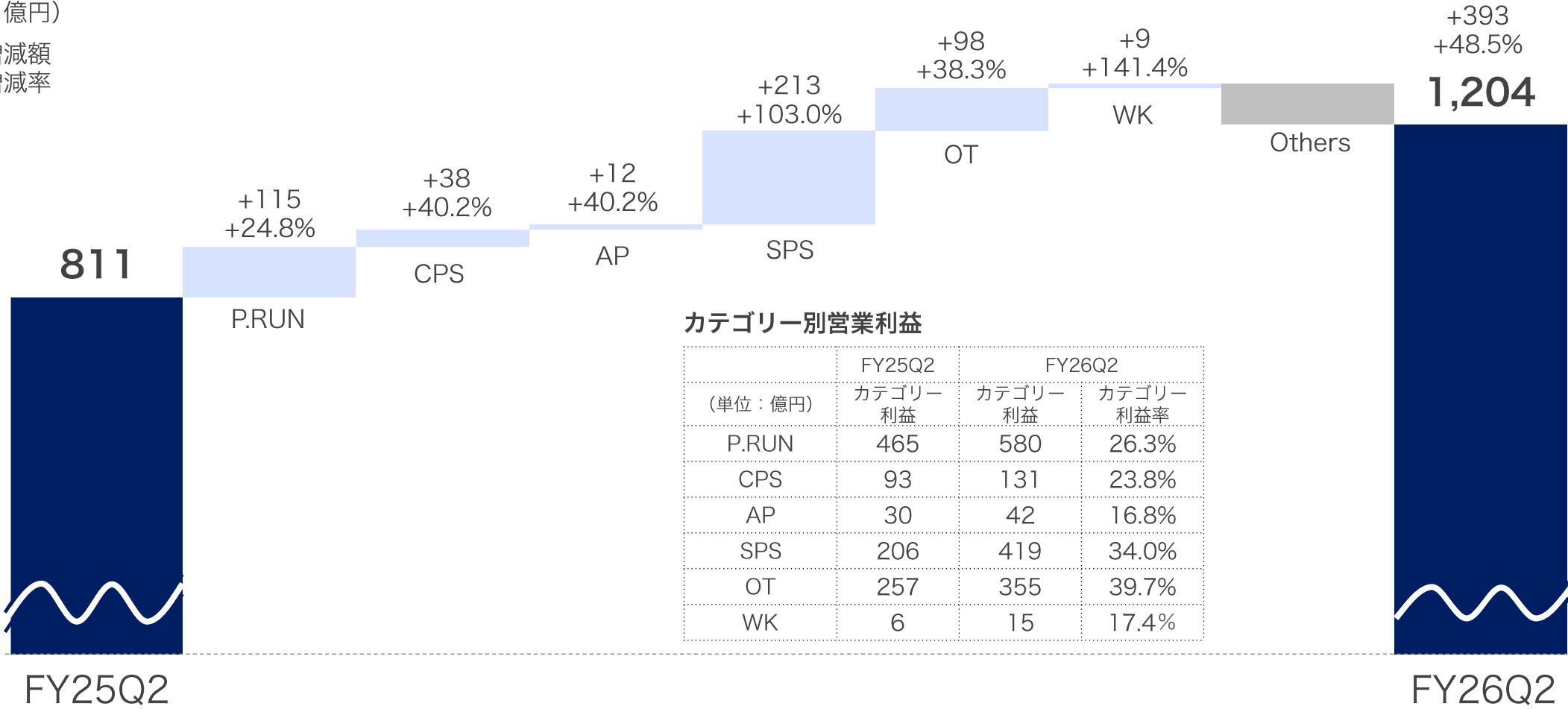
連結営業利益内訳（カテゴリー別）

- 全カテゴリーで増益. 特に、P.RUN、SPS、OTで大幅増益.
- カテゴリー利益率は、全カテゴリーで良化. 粗利益率の良化に加えて、引き続き販管費のコントロールを継続.

(単位：億円)

上段：増減額

下段：増減率



カテゴリー外コスト及びカテゴリー別損益

- カテゴリー外コストは、主に人件費及び減価償却費等で増加するも、前年同期比+25.5%と増収率の範囲内でコントロール。

(単位：億円)

	P.RUN	CPS	AP	SPS	OT	WK	Others	Total
売上高	2,206 (+357)	551 (+110)	256 (+56)	1,231 (+558)	895 (+237)	86 (+8)	119 (△9)	5,344 (+1,317)
カテゴリー利益	580 (+115)	131 (+38)	42 (+12)	419 (+213)	355 (+98)	15 (+9)		
カテゴリー外コスト								287 (+58)
連結営業利益								1,204 (+393)

() 内は前年同期比

パフォーマンスランニング (P.RUN)



NOVABLAST 6
路面からの蹴り出し時に優れたエネルギーリターンを発揮し、効率的な足運びを提供するよう設計されたランニングシューズ

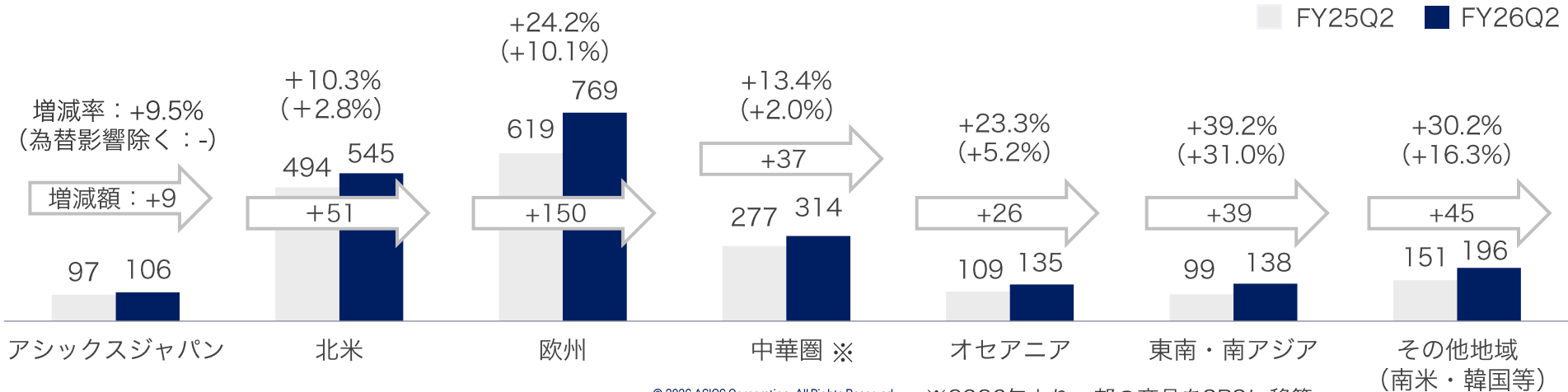


第2四半期 (1-6月)			FY25Q2	FY26Q2	(単位：億円) 前年同期比	
					増減額	増減率
売上高	1,849	2,206	+357	+19.3%		
為替影響除く		2,002	+153	+8.2%		
カテゴリー利益	465	580	+115	+24.8%		
カテゴリー利益率	25.2%	26.3%	-	+1.1ppt		

3ヶ月期間 (4-6月)		FY25Q2	FY26Q2	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高		869	1,039	+170	+19.5%
為替影響除く			922	+53	+6.1%
カテゴリー利益		203	284	+81	+39.8%
カテゴリー利益率		23.4%	27.4%	-	+4.0ppt

ポイント

- 売上高は、BOUNCEモデルが引き続き成長を牽引し、前年同期比+19.3%の増収。6月発売のGEL-KAYANO 33も好調な滑り出し。
- 第2四半期3カ月期間の売上高は、すべての地域で増収。
- 米国のランニング専門店向けの売上高は前年同期比+24.2%の増収（為替影響除く）となり、引き続き米国の主要な取引先との連携を強化。
- 粗利益率は、高付加価値商品へのフォーカスにより前年同期比+1.0pptの54.5%。
- カテゴリー利益率は、販管費率を前年並みにコントロールし、前年同期比+1.1pptの26.3%。
- 下期は7月にNOVABLAST 6を発売。8月には昨年の世界的トレイルランニング大会で優勝した当社契約選手着用のMETAFUJI TRAIL 2を発売予定。



パフォーマンスランニング (P.RUN) プロダクトポートフォリオ

- 日々のジョギングからフルマラソンまで、用途・走力・走法に合わせた細かいラインナップで構成。
- 豊富な足型データに基づく機能性が強み、トップアスリートから市民ランナーまで幅広くカバー。
- 高付加価値商品へのシフトを進め、プレミアムブランドとしてのポジショニングを強化。

STABILITY

安定感のあるサポート



GEL-KAYANO 33



GT-2000 15



GT-1000 15

CUSHION

やわらかなクッション性



GEL-NIMBUS 28



GEL-CUMULUS 28



GEL-PULSE 17

BOUNCE

沈んで弾む反発性



MEGABLAST



SUPERBLAST 3



SONICBLAST



NOVABLAST 6

SPEED

スピード重視の設計



METASPEED RAY



METASPEED TOKYO



YOGIRI SPEED



MAGIC SPEED 5

TRAIL

強力なグリップ性



METAFUJI TRAIL 2



TRABUCO MAX 5



TRABUCO 14

コアパフォーマンススポーツ (CPS)

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	441	551	+110	+24.9%
為替影響除く		509	+68	+15.5%
カテゴリー利益	93	131	+38	+40.2%
カテゴリー利益率	21.2%	23.8%	-	+2.6ppt

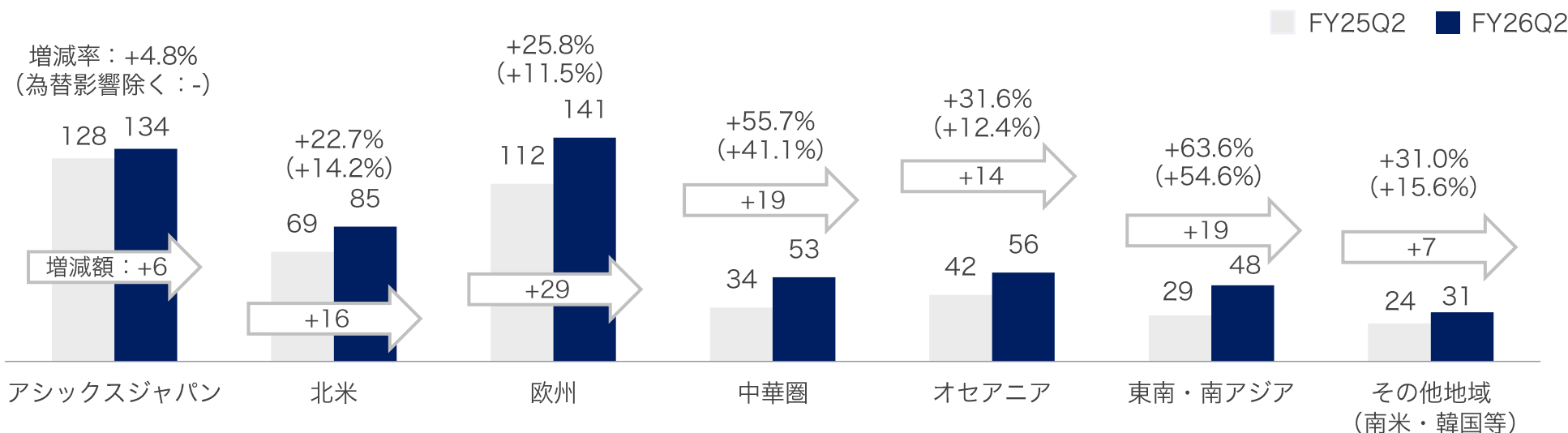
3ヶ月期間 (4-6月)	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	186	245	+59	+31.9%
為替影響除く		222	+36	+19.5%
カテゴリー利益	32	56	+24	+71.8%
カテゴリー利益率	17.5%	22.8%	-	+5.3ppt



SKY ELITE FF 4 (バレーボールシューズ)
高く跳ぶことと安定した着地をサポートする
クッション&バウンスサイロのフラッグシップモデル

ポイント

- 売上高は、テニス及びインドアスポーツの伸長により全ての地域で増収。
特にテニスでは、アシックスジャパンで50%以上、中華圏で60%以上、東南・南アジアでは130%以上の増収。
- 第2四半期3カ月期間の売上高は、全ての地域で増収。
- 粗利益率は、北米及び欧州のテニスにおける高価格帯商品の販売増、アシックスジャパンのワーキングの販売価格適正化により、前年同期比+2.2pptの49.2%。
- カテゴリー利益は、全ての地域で増益。
- バレーボール主要国際大会に合わせ、契約選手の商品着用を起点とするマーケティングコミュニケーションを実施。



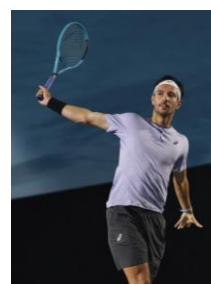
アパレル (AP)

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)			FY25Q2	FY26Q2	前年同期比 増減額 増減率	
売	上	高	200	256	+56	+28.1%
為替影響除く				234	+34	+17.1%
カ	テ	ゴ	30	42	+12	+40.2%
リー利益率			15.3%	16.8%	-	+1.5ppt
3ヶ月期間 (4-6月)			FY25Q2	FY26Q2	前年同期比 増減額 増減率	
売	上	高	96	112	+16	+15.9%
為替影響除く				100	+4	+3.9%
カ	テ	ゴ	14	12	△2	△11.2%
リー利益率			14.9%	11.4%	-	△3.5ppt

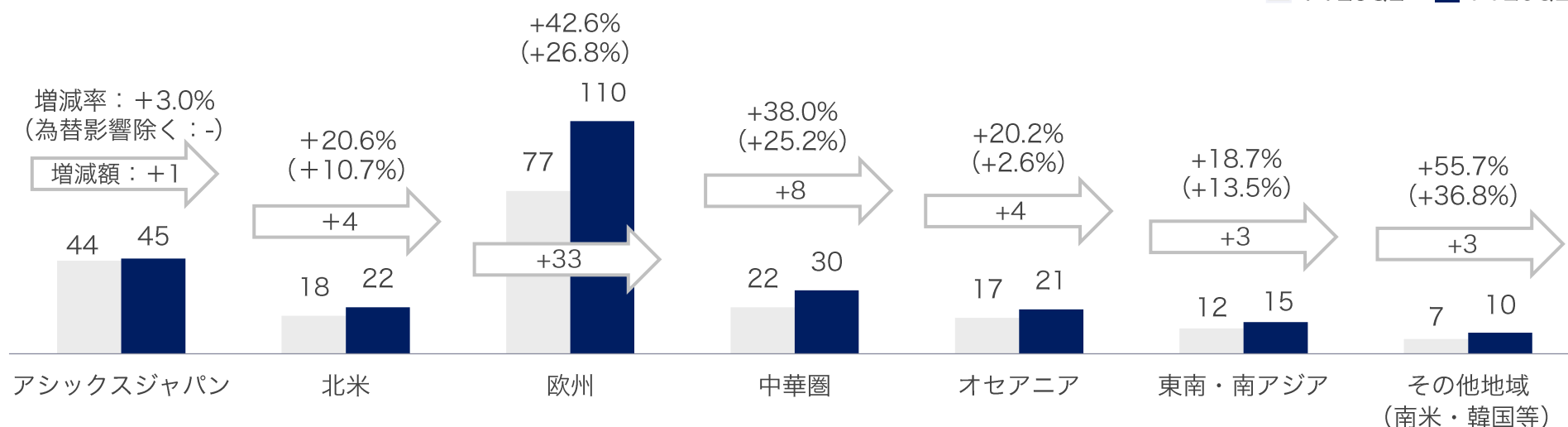
ポイント

- 売上高は、ランニング商品が好調な欧州に加え、中華圏、北米、東南・南アジアでも増収し、カテゴリー全体で前年同期比+28.1%の増収。
- 第2四半期3カ月期間の売上高は欧州、中華圏及び北米で大幅成長。
- 粗利益率は、販売価格の適正化や高付加価値商品への注力などにより、55.6%（前年同期比+0.8ppt）と改善。
- カテゴリー利益は、好調な欧州が牽引し、大幅増益。
- 世界最高峰のテニスコートで繰り広げられる夜の熱気を落とし込んだ「NIGHT ENERGY COLLECTION」を展開。ナイトセッションに特化した独自の世界観と高機能を訴求し、テニスアパレル市場でのブランドプレゼンス向上を図る。



NIGHT ENERGY COLLECTION

ニューヨークのナイトゲームと都市が放つエネルギーに着想を得たデザインに、ACTIBREEZEやACTIMOTIONなどの最先端テクノロジーを融合。夜のコートで際立つデザイン性と高いパフォーマンスを両立したテニスアパレル。



スポーツスタイル (SPS)

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)		FY25Q2	FY26Q2	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	673	1,231	+558	+83.0%	
為替影響除く		1,114	+441	+65.6%	
カテゴリー利益	206	419	+213	+103.0%	
カテゴリー利益率	30.7%	34.0%	-	+3.3ppt	
3ヶ月期間 (4-6月)		FY25Q2	FY26Q2	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	321	635	+314	+97.6%	
為替影響除く		565	+244	+75.6%	
カテゴリー利益	95	223	+128	+134.7%	
カテゴリー利益率	29.6%	35.1%	-	+5.5ppt	

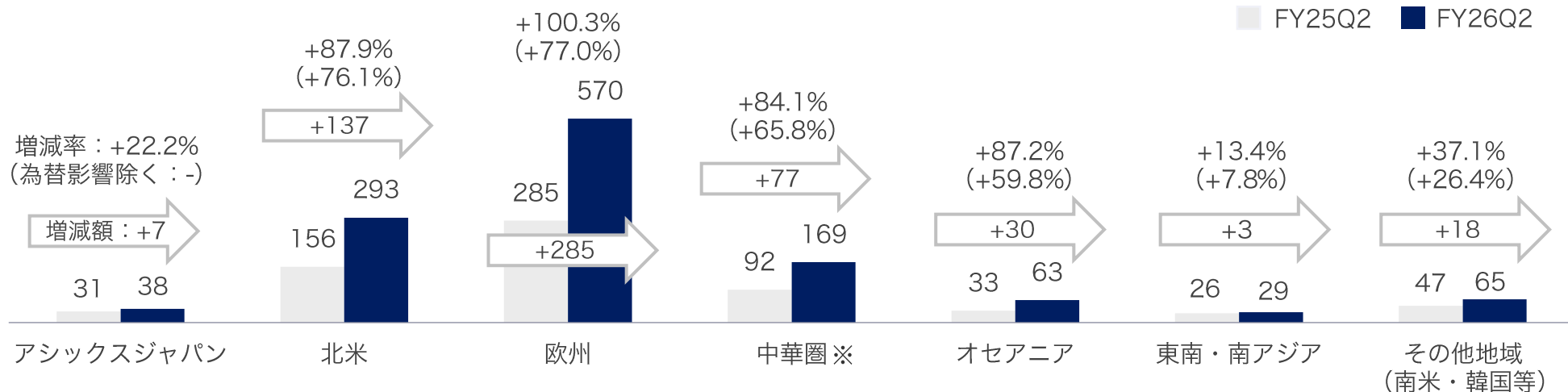
ポイント

- 売上高は、GEL-1130、GEL-NYC及びGEL-KAYANO 14等の主力商品の好調に加え、GEL-CUMULUS 16やGEL-NYC 2.0等の成長ドライバーの順調な立ち上がりにより、大幅成長。
- 第2四半期3カ月期間の売上高は欧州、北米及びオセアニアで大幅成長。
- 粗利益率は販売価格の適正化影響もあり、前年同期比+0.9pptの52.3%。
- カテゴリー利益は特に北米と欧州の増収により増益。
- AW26でのSENSORY BLOOM COLLECTIONをはじめ、今後も女性向け商品やブランドコミュニケーションを展開予定。
- 直営店舗において、プレミアムなブランド体験を強化する施策を実施予定。



SENSORY BLOOM COLLECTION

フェミニンなカラー・デザインで女性市場に向けた
新たな魅力を提案するコレクション



スポーツスタイル (SPS) プロダクトポートフォリオ

- 複数の商品群を持つことで、トレンドサイクルの早いスニーカー市場における柔軟な機会創出とリスクに対応。
- プレミアムな方向へシフトし、\$100以上の商品を中心にプロダクトポートフォリオを構成。
- アパレルコレクションを活用したスタイリング提案やコラボレーションによる商品訴求・新顧客の取り込みを実施しながら、AW26も引き続き多様な新商品を投入。

VISIBLE TECH

テクノロジーとスタイルの融合



GEL-KINETIC FR



GEL-QUANTUM 360 I AMP

MODERN

アーカイブの再構築



GEL-NYC 2.0



US8-S GEL-SJ33

VINTAGE TECH

2000年代アーカイブ



GEL-KAYANO 14



HYPERSYNC

CLASSICS

90年代アーカイブ



LYTE CLASSIC



SKYHAND OG

SPS APPAREL

SPS世界観の創出



AW26 INLINE COLLECTION

SKATEBOARDING

スケートボードに向けたテクノロジーとスタイル



LEGGEREZZA FB



JAPAN PRO MT

コラボレーション・特別仕様商品



ASICS X HIDDEN NY
GEL-KINETIC 2.0



ASICS X KIKO KOSTADINOV
ILARGI FF II



ASICS X LTTT
GEL-RESOLUTION 5



ASICS X MITSUI
GEL-LYTE III 07
Remastered



ASICS NOVALIS COLLECTION
Season5



ASICS X LATE NITE STARS
GEL-FLEXKEE PRO 2.0

オニツカタイガー (OT)



ROTEMIT

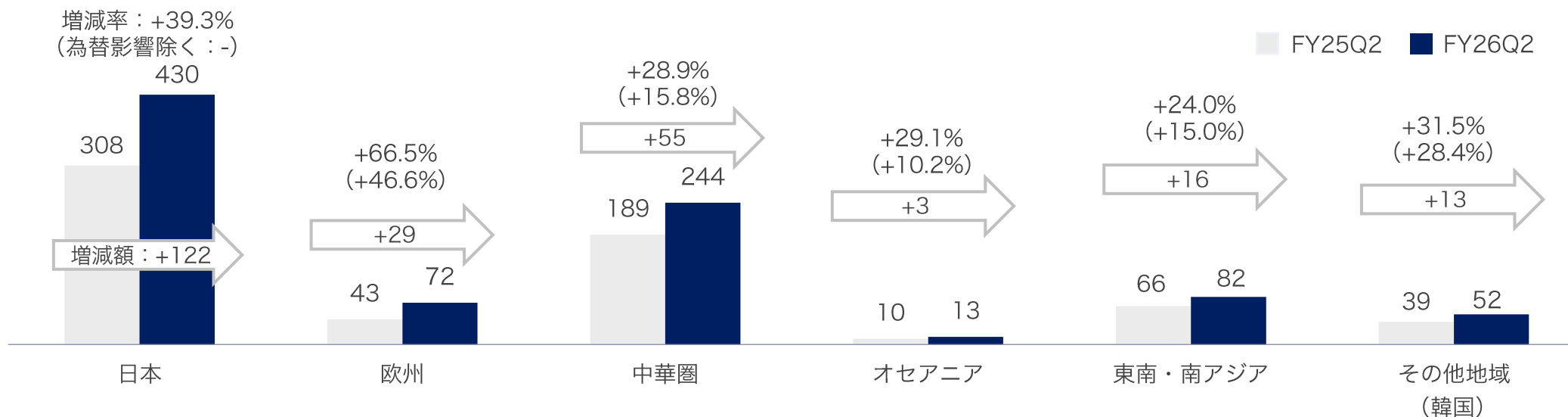
80年代バレーボールシューズを現代的なバランスで再構築したモデル。
レトロなカラー展開でクラシックな佇まいと個性が際立つデザイン。

ポイント

- 売上高は、インバウンド需要が好調な日本を中心に全地域で2桁以上の増収。
- 第2四半期3カ月期間の日本におけるインバウンド売上は155億円となり、四半期ベースでは過去最高を更新（前年同期比+39.5%）。
- 粗利益率は74.6%（前年同期比+0.4ppt）と、引き続き高水準を維持。
- 7月に新宿（世界最大、ブランド全ラインアップ展開）及び中国・上海、8月には名古屋に旗艦店をオープン。今後、9月にイタリア・ミラノ、10月には韓国・ソウルに旗艦店をオープンし、ブランドエクイティの更なる強化を図る。

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	658	895	+237	+35.9%
為替影響除く		852	+194	+29.4%
カテゴリー利益	257	355	+98	+38.3%
カテゴリー利益率	39.1%	39.7%	-	+0.6ppt
3ヶ月期間 (4-6月)	FY25Q2	FY26Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	375	516	+141	+37.5%
為替影響除く		487	+112	+29.7%
カテゴリー利益	154	205	+51	+33.6%
カテゴリー利益率	41.0%	39.9%	-	△1.1ppt



オニツカタイガー 新規店舗

- ・ グローバルで新たな店舗をオープン。主要通りに大型の店舗を出店することでブランド露出の最大化を図る。
- ・ 2027年に米国市場へ再進出し、ロサンゼルスに出店予定。

主な出店実績・予定

中国・上海

- ・ 中国上海の中心部に位置する、歴史とモダンカルチャーが融合したトレンドの発信地
- ・ 近隣の既存旗艦店をハイトラフィックエリアへ移転
- ・ 店舗オープン日：2026年7月4日、面積：471㎡



日本・新宿

- ・ 国内外から多くの人々が集う東京を代表する商業・観光エリアに位置する、オニツカタイガー世界最大のグローバル旗艦店
- ・ 全ラインナップの展開
- ・ 店舗オープン日：2026年7月10日、面積：1,837㎡



日本・名古屋

- ・ 商業・ビジネス・観光の中心となる名古屋駅前の大型路面店
- ・ エリア初のcontemporary（ミラノファッションウィークで発表されるコレクションを展開するシリーズ）取扱店
- ・ 店舗オープン日：2026年8月7日、面積：677㎡



イタリア・ミラノ

- ・ 世界有数の観光地、ドゥオーモ付近に位置する大型店舗
- ・ 新コンセプトのカフェを併設
- ・ 店舗オープン時期：2026年9月、面積：516㎡



韓国・ソウル

- ・ ソウルを代表する江南区の高級商業エリアに位置する、韓国最大級の大型路面店舗
- ・ ヘリテージを中心に豊富なアイテムラインナップ
- ・ 店舗オープン時期：2026年9月、面積：435㎡



米国・ロサンゼルス

- ・ ブランドの世界観を体現する店舗オープンにより、オムニチャネル拠点として北米へ再進出
- ・ 店舗オープン時期(予定)：2027年



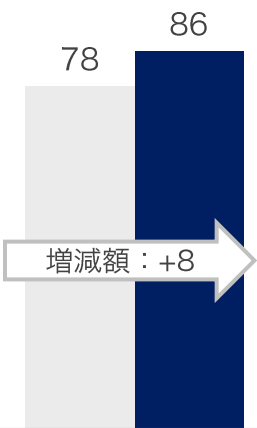
※イメージ画像

ウォーキング (WK)

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)			FY25Q2	FY26Q2	前年同期比 増減額	増減率
売上高			78	86	+8	+9.8%
為替影響除く				86	+8	+9.8%
カテゴリー利益			6	15	+9	+141.4%
カテゴリー利益率			7.9%	17.4%	-	+9.5ppt
3ヶ月期間 (4-6月)			FY25Q2	FY26Q2	前年同期比 増減額	増減率
売上高			41	43	+2	+4.4%
為替影響除く				43	+2	+4.4%
カテゴリー利益			3	7	+4	+139.0%
カテゴリー利益率			7.4%	17.0%	-	+9.6ppt

増減率：+9.5%
(為替影響除く：-)



日本

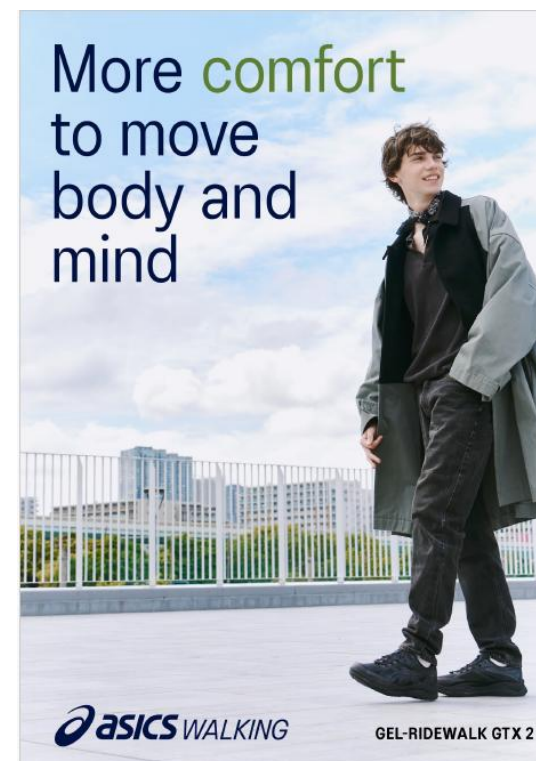


RUNWALK TRAD SNEAKER

上品な光沢感のある日本製スニーカー

ポイント

- 売上高は、全てのチャンネルで増収となり、前年同期比+9.8%の増収。
- 第2四半期3カ月期間は、第1四半期に引き続き直営店のインバウンド売上が好調に推移。
- 粗利益率は、販売価格の適正化やDTC比率の上昇により56.1%（前年同期比+4.0ppt）。
- 増収、粗利益率の改善もあり、カテゴリー利益は増益。
- グローバル展開に向け、海外キーアカウントを招待した新商品ローンチイベントを9月に予定。



INDEX

1. 決算サマリー等
2. 連結業績の概要
3. カテゴリー別連結経営成績
- 4. 地域別連結経営成績**
5. 連結財政状態
6. 連結業績予想
7. IRカレンダー

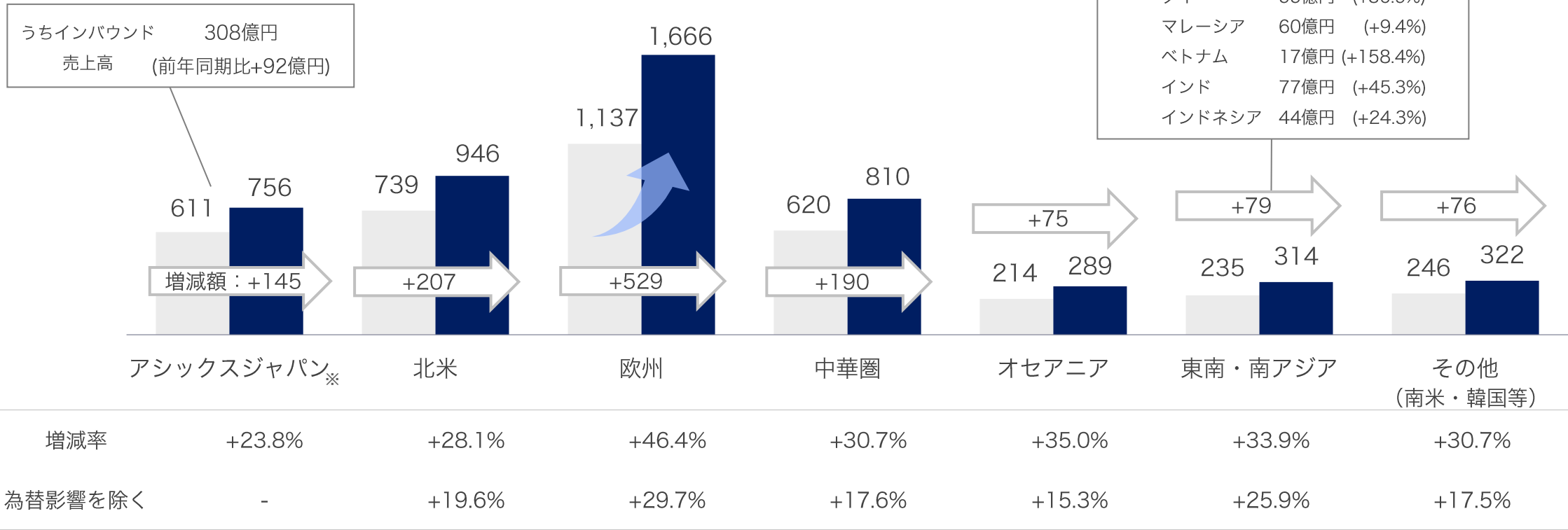
Appendix

地域別売上高

- 北米は、SPS (+76.1%) が大きく伸長し、前年同期比+19.6%の成長。
- 欧州は、P.RUN (+10.1%) の堅調な成長を軸に、SPS (+77.0%) 及びOT (+46.6%) が牽引し、前年同期比+29.7%と大幅成長。
- 中華圏は、主にリテール及びEコマースでの売上が好調に推移し、前年同期比+17.6%と成長を継続。
- 東南・南アジアは、主にEコマースで売上が伸長し、前年同期比+25.9%と大幅成長。

※ 地域別連結経営成績におけるコメント内の増減率は全て為替影響を除く。

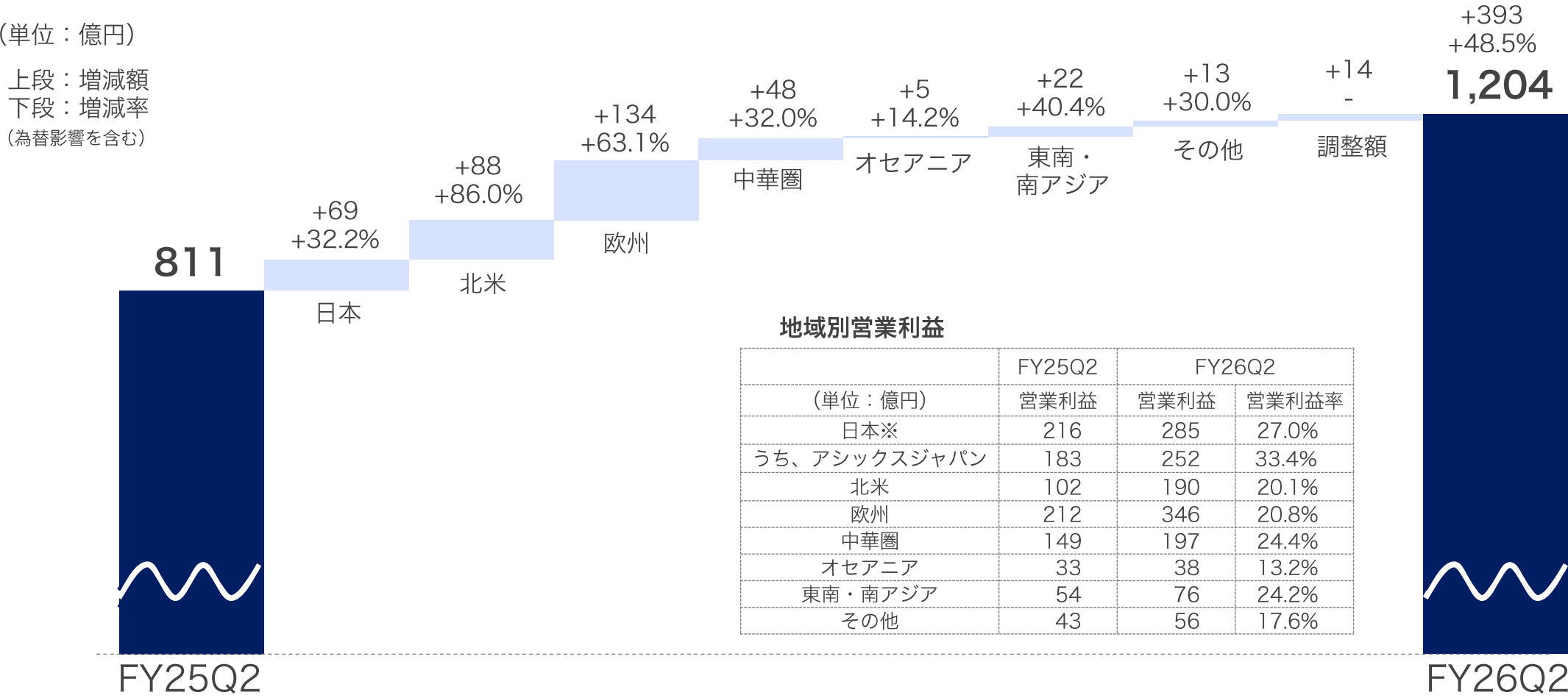
(単位：億円) ■ FY25Q2 ■ FY26Q2



※ 決算短信における日本地域の売上は、前期992億円、当期1,060億円です。当説明資料においては、他の地域との比較可能性を考え、主要5カテゴリーを販売するアシックスジャパンとしております。

連結営業利益内訳（地域別）

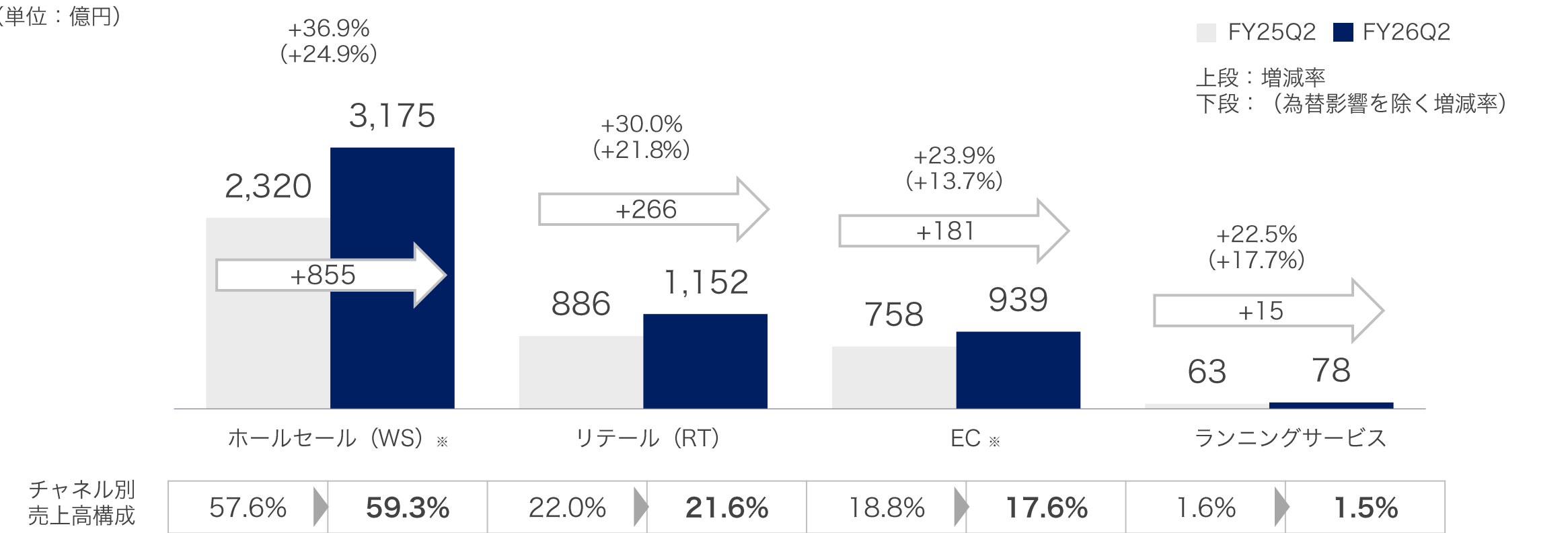
- アシックスジャパンは、OTの大幅増収に伴い営業利益率33.4%（前年同期比+3.4ppt）と大幅に向上.
- 北米は、SPSの大幅増収に伴い営業利益率20.1%（前年同期比+6.2%ppt）と大幅に向上.
- 欧州は、SPS及びOTの増収に加え販管費率が良化したことにより、営業利益率20.8%(前年同期比+2.1ppt）.



※ 日本地域には、アシックスジャパンの他、アシックス商事、ニシスポーツなどの会社を含みます。
© 2026 ASICS Corporation. All Rights Reserved.

チャンネル別売上高

- ホールセールは、北米、欧州、東南・南アジア等の増収により前年同期比+24.9% (北米+36.8%、欧州+38.3%、東南・南アジア+25.4%)、
- リテールは、アシックスジャパン、中華圏等の増収により前年同期比+21.8% (アシックスジャパン +37.7%、中華圏 +21.5%)、
- ECは、戦略的な絞り込みを実施した北米を除く全地域で増収し前年同期比+13.7%、北米を除くと+23.1%の成長。



※ 自社ECサイトとマーケットプレイスはECに含み、ホールセールEリテラーはホールセールに含んでおります。

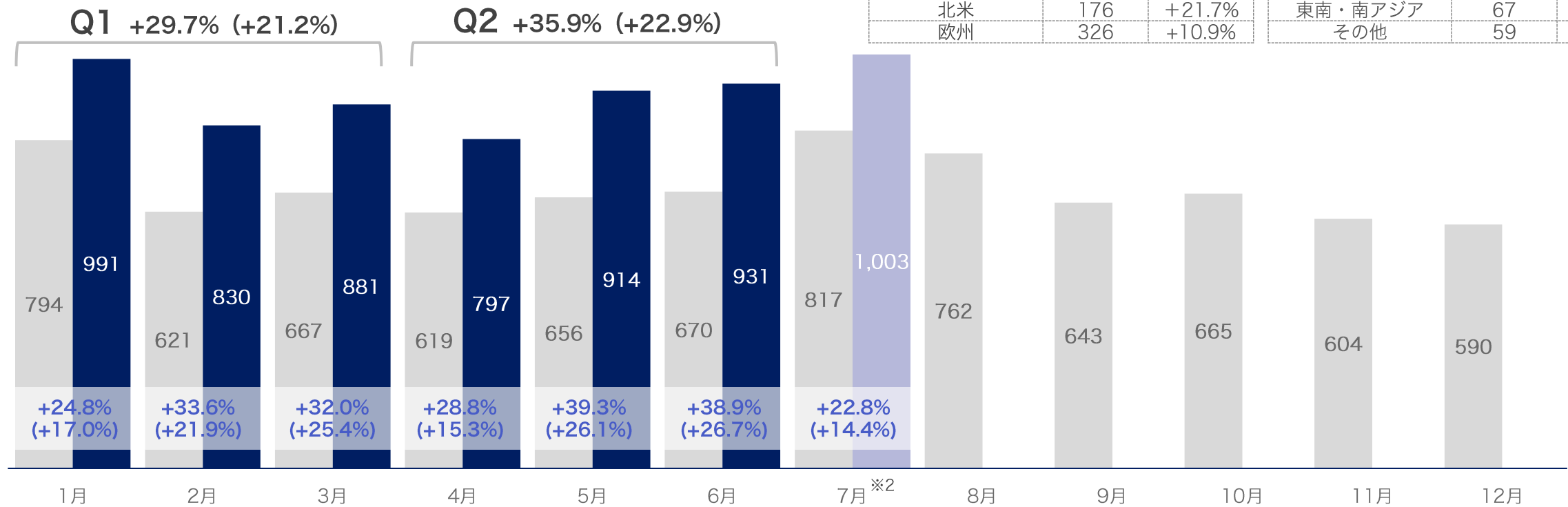
連結売上高（月別・四半期別）※1

- 26年7月単月売上は1,003億円※2。前年同月比+22.8%（為替影響除くと+14.4%）。
- 全カテゴリーで増収。特にSPSは+45.1%（為替影響除くと+34.2%）、OTは+34.9%（為替影響除くと+29.0%）と前年同月比で大幅増収。
- 地域別では、アシックスジャパン、北米、欧州などで大幅増収。
アシックスジャパンのインバウンド売上は53億円（内、OT 47億円）となり、前年同月の35億円（内、OT 31億円）を大きく上回る。

（単位：億円）

■ FY26
■ FY25
■ 売上速報
■ 前年同月比%（為替影響を除く増減率）

7月度主要地域売上	売上高	為替影響を除く増減率		売上高	為替影響を除く増減率
連結	1,003	+14.4%	中華圏	124	+6.1%
アシックスジャパン	148	+23.4%	オセアニア	67	+12.2%
北米	176	+21.7%	東南・南アジア	67	+28.6%
欧州	326	+10.9%	その他	59	+16.1%



※1 連結売上高に占めるWS比率が上昇している中、WSアカウント向けの売上認識タイミングが単月売上高に与える影響が大きくなっており、対前年増減率が必ずしもアシックスの成長モメンタムを適切に表していないケースがあること、また多くの投資家からのご指摘を踏まえ、月別売上高（速報）の開示は今回を最後とさせていただきます。

※2 2026年7月の売上高は速報データに基づいているため、確定データとは差異が生じる場合があります。

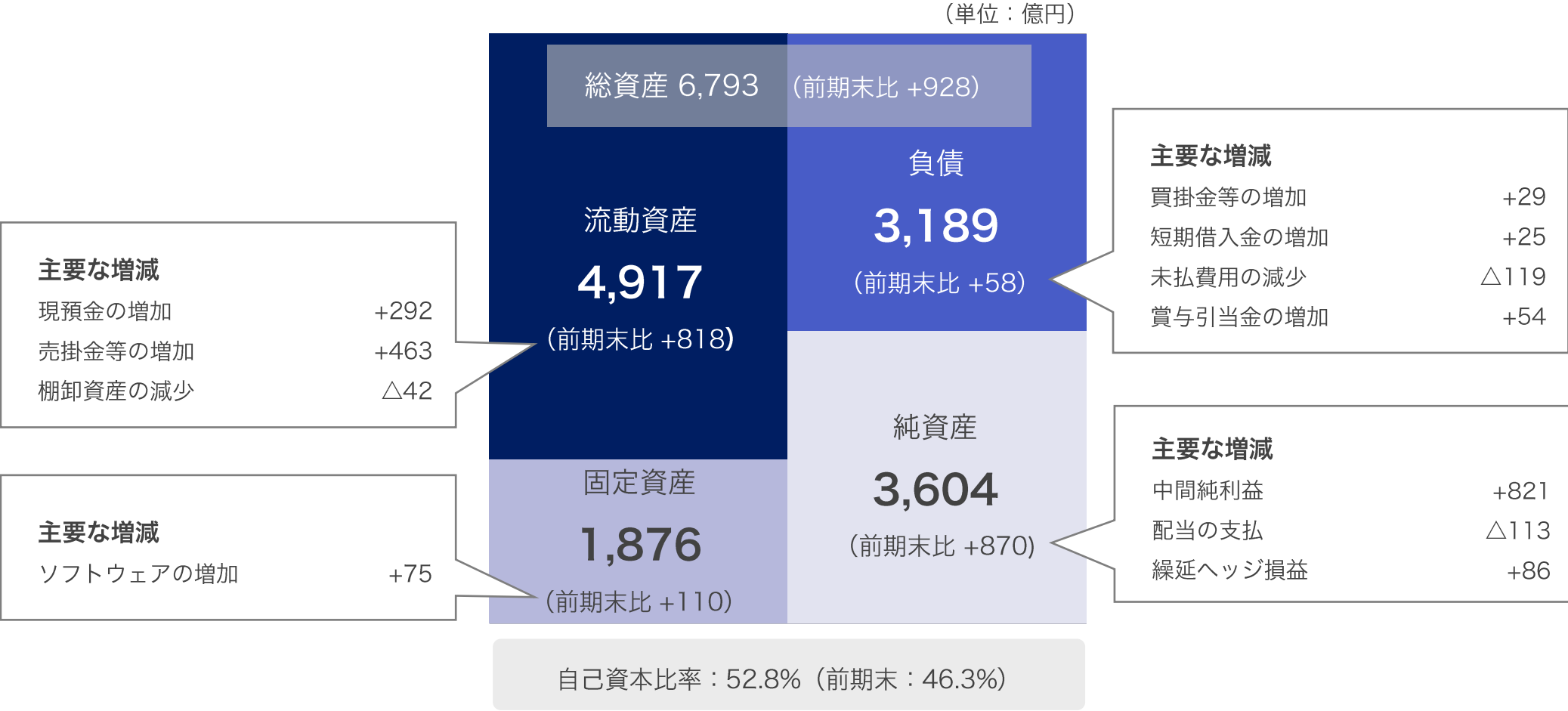
INDEX

1. 決算サマリー等
2. 連結業績の概要
3. カテゴリー別連結経営成績
4. 地域別連結経営成績
- 5. 連結財政状態**
6. 連結業績予想
7. IRカレンダー

Appendix

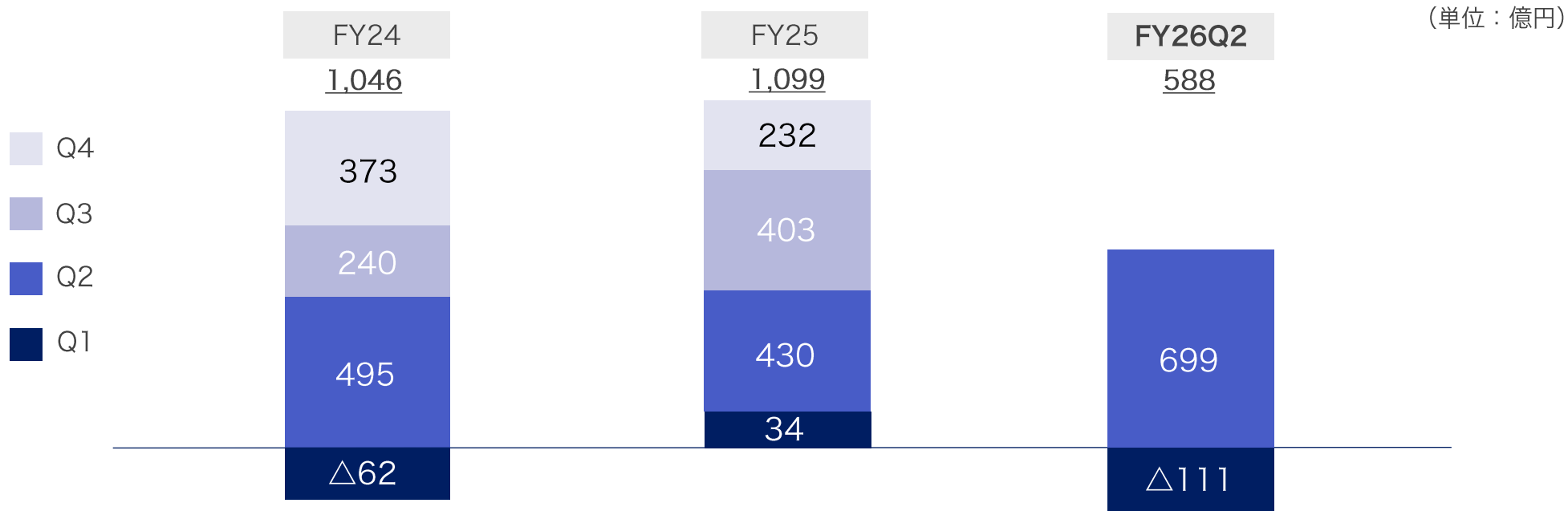
連結貸借対照表

- 増収増益を背景に、現預金および売掛金が増加。一方、棚卸資産は、継続的な管理強化により前期末比42億円減少（為替影響除くと83億円減少）。
- 純利益の積上げにより財務基盤が一層強固となり、自己資本比率は52.8%に上昇。



連結営業キャッシュ・フロー

- 成長に向けた人的資本投資、法人税支払及び運転資本の増加を吸収し、営業キャッシュ・フローは中間期過去最高の588億円（前年同期比+124億円）を創出。
- 過去最高の中間純利益を背景に、力強いキャッシュ創出力を維持。



連結CCC

				(単位：日数)	
	FY25Q2	FY25Q4	FY26Q2	前年同期比	前期末比
DSO (売掛債権回転期間)	45	45	45	-	-
DIO (棚卸資産回転期間)	147	152	150	3日悪化	2日良化
DPO (買掛債務回転期間)	65	65	62	3日悪化	3日悪化
CCC	127	132	133	6日悪化	1日悪化
参考：現預金残高	1,246億円	1,122億円	1,414億円	+168億円	+292億円

カテゴリー別／主要地域別DIO及び棚卸資産

- 連結DIOは150日（前年同期比+3日）。
- 主に、インバウンド需要が好調なアシックスジャパンでOT商品の在庫構成比が上昇したことにより、DIOはわずかに長期化。

■連結DIO（単位：億円）		FY25Q2	FY25Q4	FY26Q2	前年同期比	前期末比
連結	DIO	147日	152日	150日	+3日	△2日
	棚卸資産	1,387	1,789	1,747	+360	△42
	うち洋上在庫	330	463	347	+17	△116

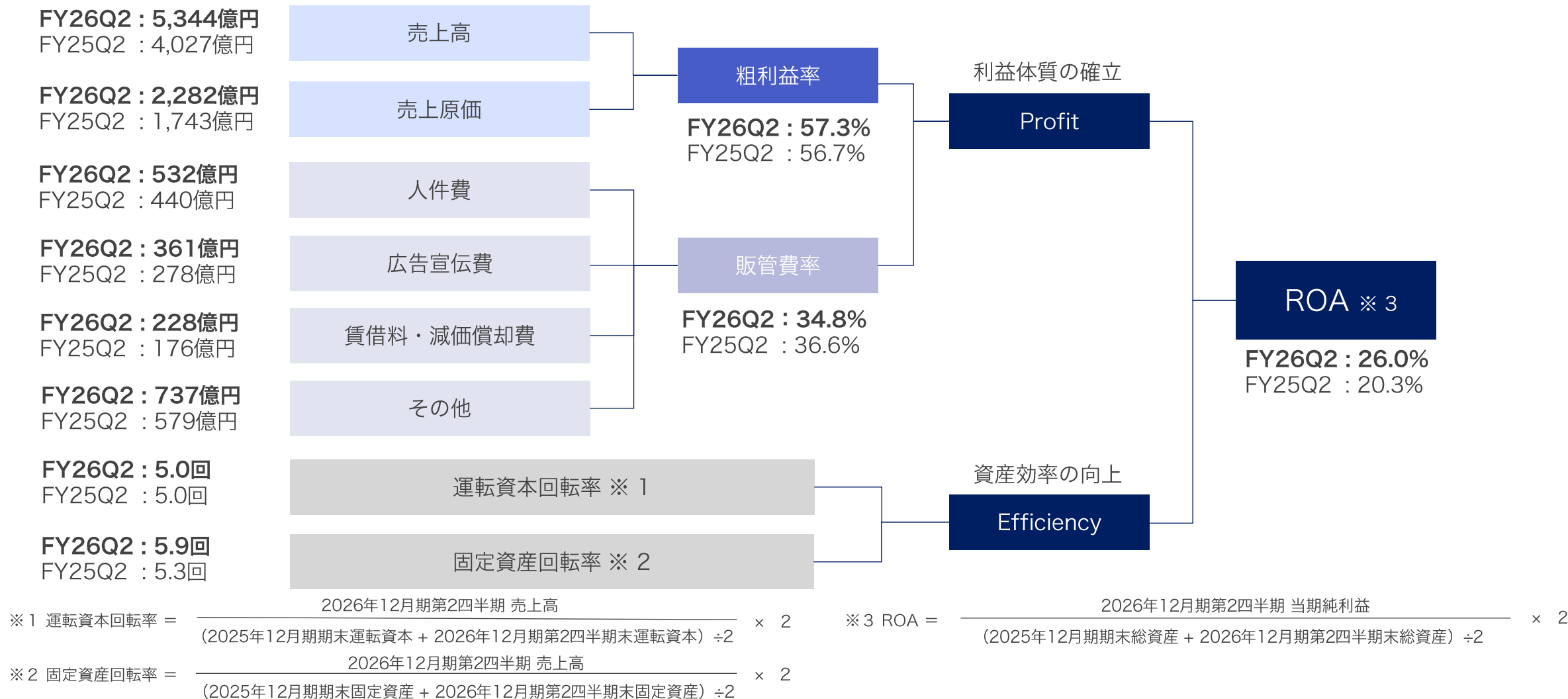
■カテゴリー別（単位：億円）※		FY25Q2	FY25Q4	FY26Q2	前年同期比	前期末比
P.RUN	DIO	95日	96日	100日	+5日	+4日
	棚卸資産	469	615	617	+148	+2
CPS	DIO	88日	88日	90日	+2日	+2日
	棚卸資産	120	150	165	+45	+15
AP	DIO	158日	161日	165日	+7日	+4日
	棚卸資産	87	96	114	+27	+18
SPS	DIO	81日	83日	76日	△5日	△7日
	棚卸資産	160	222	249	+89	+27
OT	DIO	209日	210日	214日	+5日	+4日
	棚卸資産	204	247	272	+68	+25

※ カテゴリー別棚卸資産残高には洋上在庫を含めておりません。

■主要地域別（単位：現地通貨）		FY25Q2	FY25Q4	FY26Q2	前年同期比	前期末比
アシックスジャパン （億円）	DIO	131日	139日	153日	+22日	+14日
	棚卸資産	163	222	233	+70	+11
米国 （M USD）	DIO	110日	114日	110日	-	△4日
	棚卸資産	139	187	149	+10	△38
欧州 （M EUR）	DIO	144日	146日	138日	△6日	△8日
	棚卸資産	235	286	249	+14	△37
中国 （M RMB）	DIO	172日	170日	159日	△13日	△11日
	棚卸資産	869	977	907	+38	△70

ROAツリー分解

- 販売価格の適正化等による粗利益率の改善に加え、増収及びコスト最適化により販管費率も低下。
- 増収効果により固定資産回転率が上昇し、資産効率が向上。
- この結果、ROAは前年同期比+5.7pptの26.0%へ良化。



INDEX

1. 決算サマリー等
2. 連結業績の概要
3. カテゴリー別連結経営成績
4. 地域別連結経営成績
5. 連結財政状態
- 6. 連結業績予想**
7. IRカレンダー

Appendix

2026年12月期 連結業績予想

- 2026年12月期第2四半期は全カテゴリー、全地域で順調に進捗。
- 2026年12月期は、上期の好調な実績に加え、スポーツスタイル及びオニツカタイガーが好調に推移する見込みであること、計画為替レートを足元の環境に応じて見直したことにより、売上高は前年比+29.5%増収の1兆500億円、営業利益は同+36.8%増益の1,950億円を見込む。
- 剰余金の配当は、当期の業績を勘案した結果、中間配当20円、期末配当24円の通期44円を見込む。

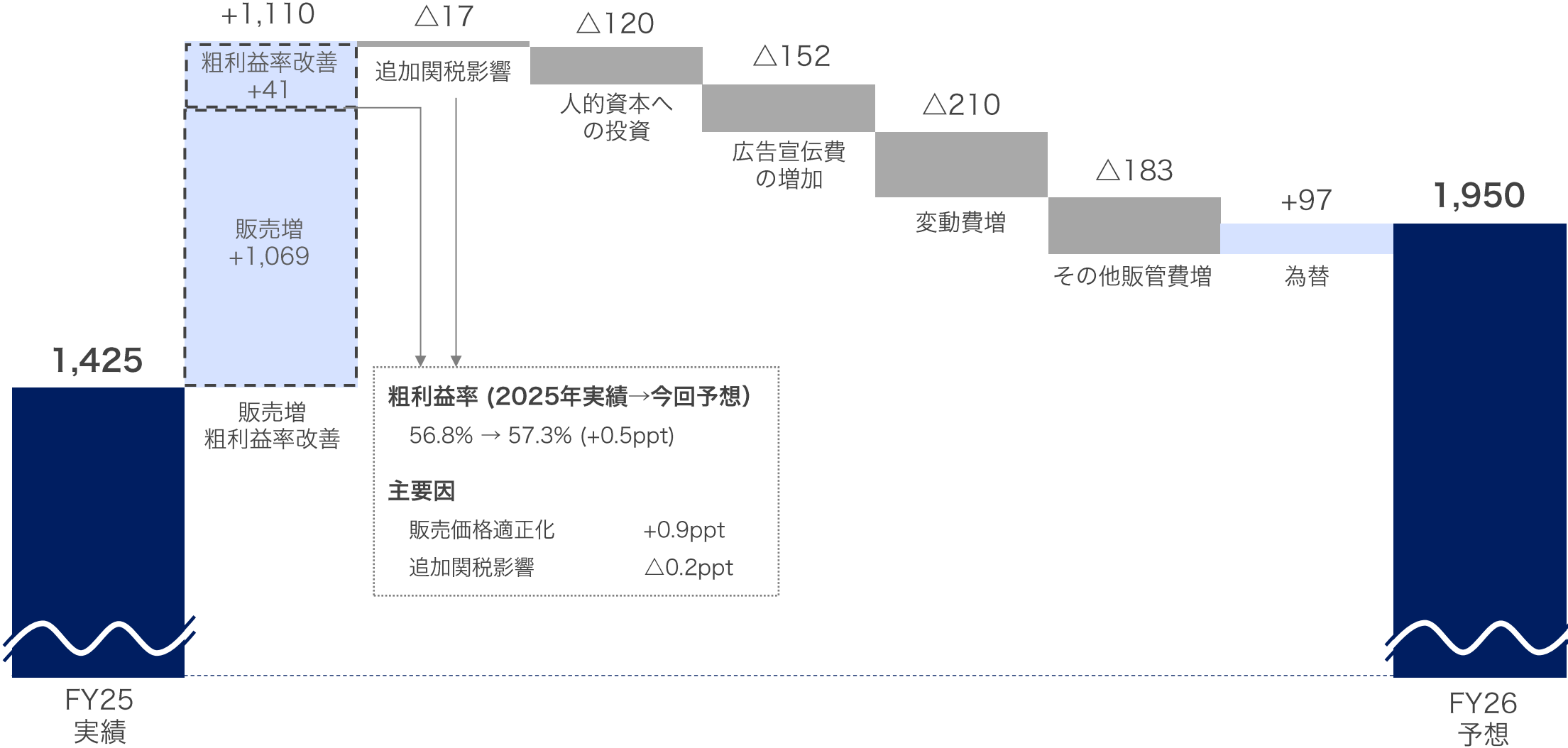
(単位：億円)	FY25 実績	FY26 予想	FY25比 増減率
売上高	8,109	10,500	+29.5%
営業利益	1,425	1,950	+36.8%
営業利益率	17.6%	18.6%	+1.0ppt
経常利益	1,392	1,890	+35.7%
親会社株主に帰属する			
当期純利益	987	1,200	+21.6%

配当金	中間	期末	通期
2025年12月期	12.0円	16.0円	28.0円
2026年12月期	20.0円	24.0円	44.0円

為替レート	USD	EUR	RMB
2025年12月期	150.32	169.09	20.93
2026年12月期	160.00	180.00	23.00

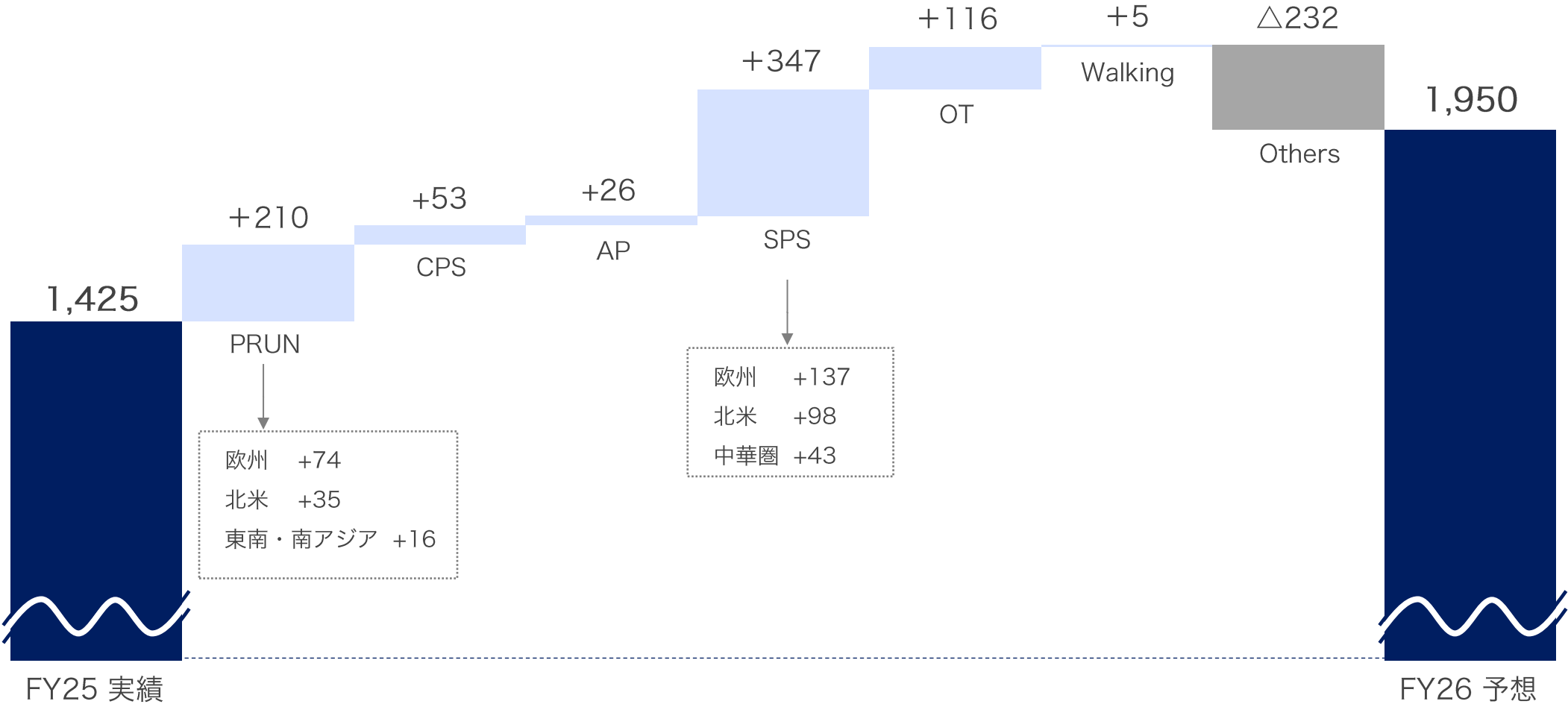
2026年度 通期営業利益予想増減：要素別（前年比）

(単位：億円)



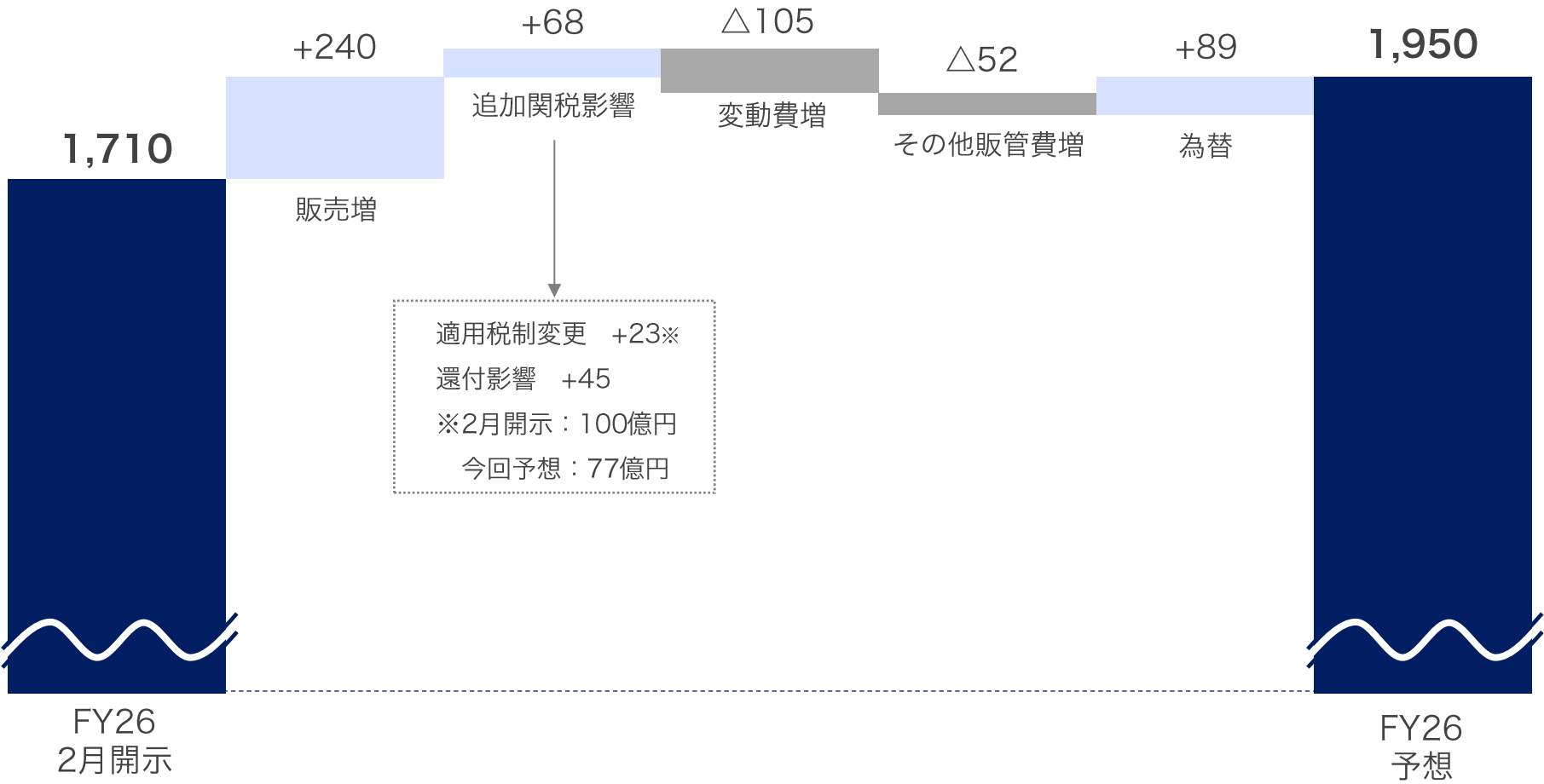
2026年度 通期営業利益予想増減：カテゴリー別（前年比）

(単位：億円)



2026年度 通期営業利益予想増減：要素別（2月開示比）

(単位：億円)



米国関税について

- 本年2月の開示時点では通年で約20%の追加税率が適用される想定で67百万米ドルの影響を見込んでいた。
- その後の適用税制の変更等を受け、8月時点において2026年通期の業績影響を48百万米ドルと見込む。
- 2026年2月23日までの支払い分について、米国政府からの還付金（約28百万米ドル）は入金済。Q2累計の連結粗利益率にプラス影響（+0.8ppt）。
- なお、米国には約3.5ヶ月分の在庫があり、関税の適用時期（通関時）とPL認識時点（販売時）は異なる。

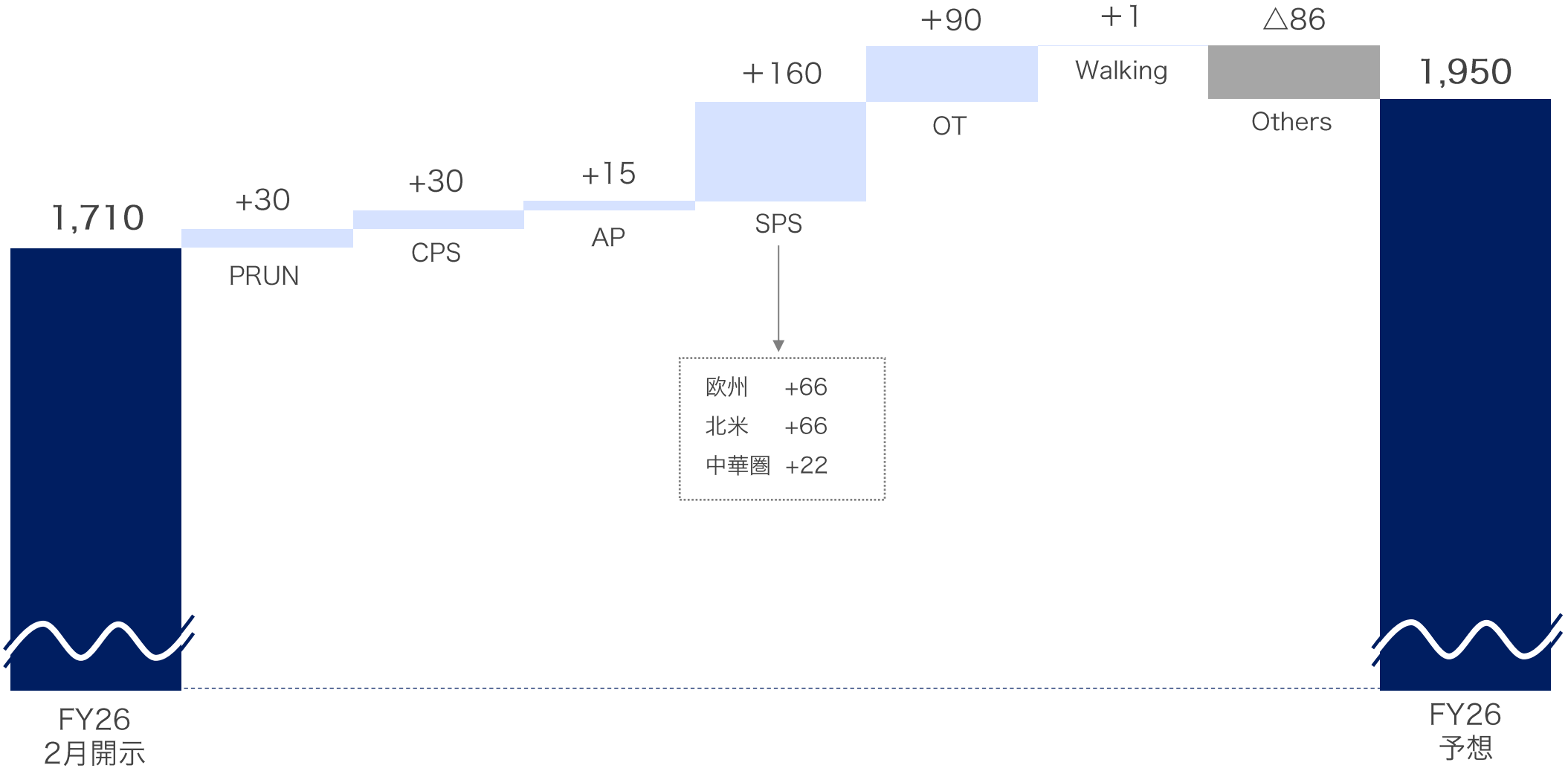
米国関税の適用率及び影響額

2026年	Q1		Q2	Q3	Q4	通期影響額
2月開示予想 の追加関税率想定	約20%					△67百万米ドル
追加関税適用率 (7月24日時点の見通し)	約20%	2/24～ 10%		7/25～ 12.5%（ベトナム） 10%（インドネシア他）		—
影響額	△18百万米ドル		△12百万米ドル	△18百万米ドル (予想)		△48百万米ドル (予想)

還付： 28百万米ドル

2026年度 通期営業利益予想増減：カテゴリー別（2月開示比）

(単位：億円)

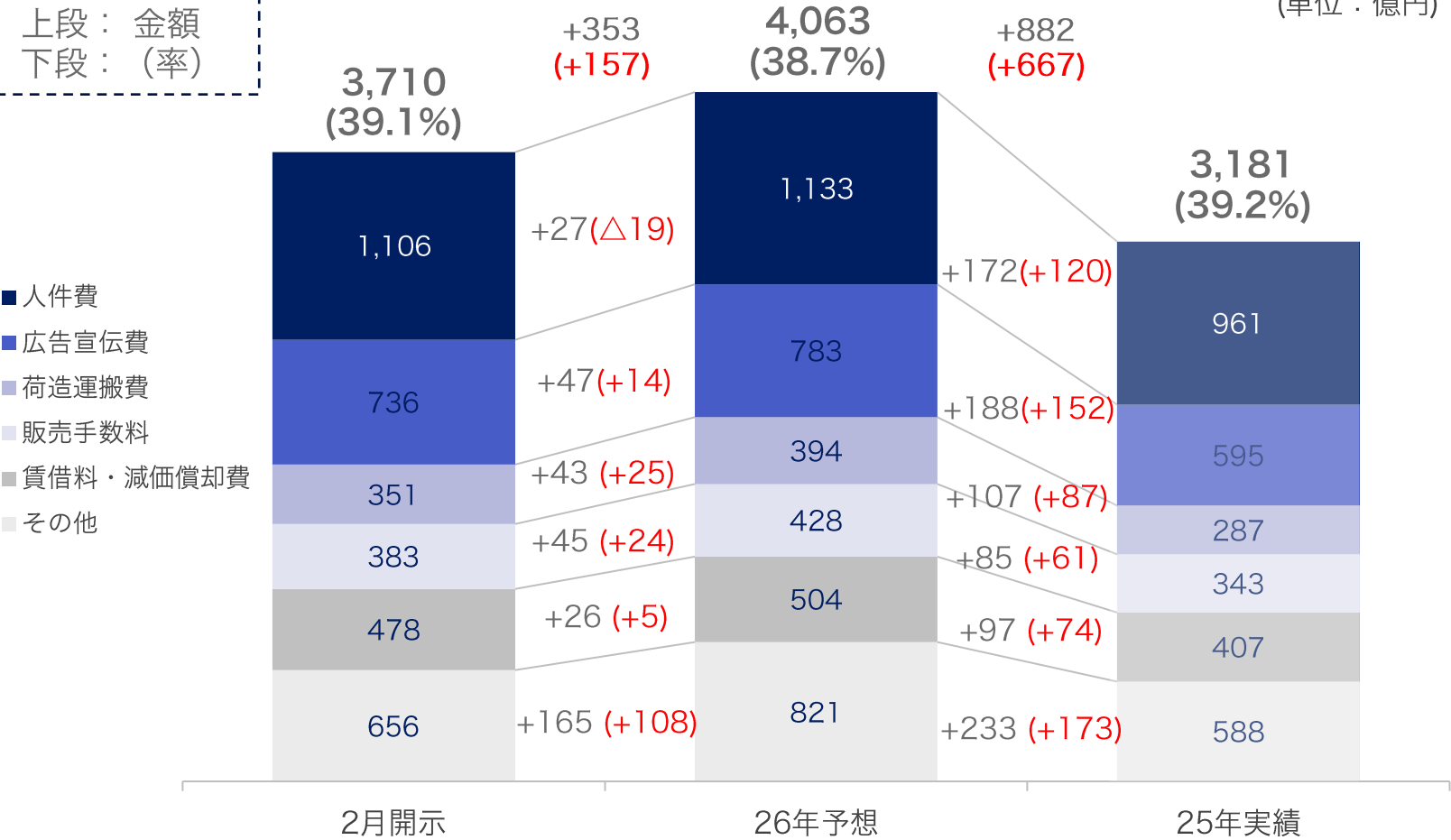


2026年度 販管費

- 2026年度の販管費は、前期比で882億円増の4,063億円に見直し。
- 主な増加要因は、人件費（人的資本投資の強化）、広告宣伝費及び売上変動費の増加。
- 販管費率は38.7%、引き続き規律ある販管費コントロールを実施。

上段：金額
下段：（率）

(単位：億円)



<参考：平均為替レート(円)>

年間(1~12月)	FY25 実績	FY26 予想
1ドル	150.32	160.00
1ユーロ	169.09	180.00
1人民元	20.93	23.00

INDEX

1. 決算サマリー等
2. 連結業績の概要
3. カテゴリー別連結経営成績
4. 地域別連結経営成績
5. 連結財政状態
6. 連結業績予想
- 7. IRカレンダー**

Appendix

2026年度 IRカレンダー（予定）

	イベント		
2026	8月30日(日)	13:30 – 16:00	個人投資家向け体験型IR説明会 @仙台
	9月12日(土)	13:30 – 16:00	個人投資家向け体験型IR説明会 @神戸
	11月13日(金)	13:00開示	2026年12月期 第3四半期決算 決算発表
	11月13日(金)	14:00 - 15:00	2026年12月期 第3四半期決算 決算説明会（機関投資家、アナリスト、報道機関向け）
	11月17日(火)	16:00 – 17:30	インベストメントデイ（テーマ：VISION・中期経営計画2029）
	11月29日(日)	時間未定	個人投資家向け体験型IR説明会 @名古屋
	12月12日(土)	時間未定	個人投資家向け体験型IR説明会 @広島
2027	2月12日(金)	13:00開示	2026年12月期 決算発表
	2月12日(金)	14:00 - 15:00	2026年12月期 決算説明会（報道機関向け）
	2月13日(土)	時間未定	個人投資家向け体験型IR説明会 @東京
	2月15日(月)	14:00 - 15:00	2026年12月期 決算説明会（機関投資家、アナリスト、報道機関向け）

INDEX

1. 決算サマリー等
2. 連結業績の概要
3. カテゴリー別連結経営成績
4. 地域別連結経営成績
5. 連結財政状態
6. 連結業績予想
7. IRカレンダー

Appendix

サステナビリティに関する取組み・外部評価

サステナビリティレポート2025を発行
詳細は[こちら](#)からご覧いただけます。



環境

「Run for Reforestation Challenge 2026」で世界で113,506名が完走

- 「ASICS Runkeeper」のアプリを通じて、ランニングまたはウォーキングを5km実施するごとにアシックスが1本植樹する取組みを4月1日～30日に実施。
- 提携する国際NGO、One Tree Plantedを通じて植樹を実施予定。



外部評価

国際NPO・CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」において2年連続で最高評価を獲得

- 2年連続でサプライヤーエンゲージメントリーダーに選ばれ、約22,100社の調査対象のうち、上位約9%にあたるAリストに認定。
- サプライチェーンを通じた気候変動対策への取組み、温室効果ガス排出量の削減活動の実施が評価された。



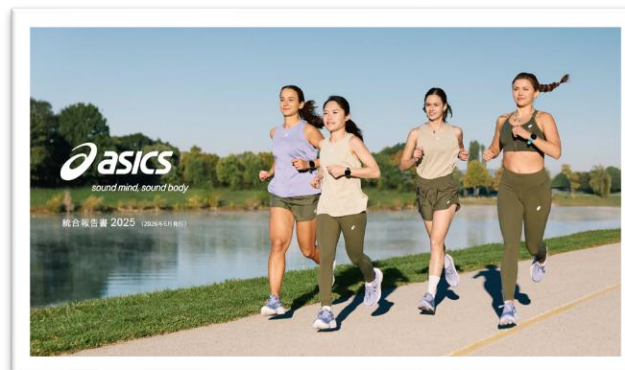
SX銘柄2026に2年連続で選定

- 東証上場企業約3,900社の中から、サステナビリティ課題等を自社の成長に取り込み、長期的・持続的な企業価値向上を実現する先進的企業を選定するもの。第3回目となる本年は15社が選定。
- 表彰式にて開催された、「企業価値向上に向けた成長投資と還元」をテーマとするパネルディスカッションに常務執行役員CAOの堀込が登壇。



IR・知的財産に関する取組み

統合報告書2025
こちらからご覧いただけます。



Introduction Movie
こちらからご覧いただけます。



統合報告書2025の発行

- 今回は、グローバルNo.1スポーツブランドを目指すアシックスとして、テーマを「Ahead of the Game」に設定。
- 「中期経営計画2026」の方針である「Global Integrated Enterpriseへの変革」を切り口に進捗と課題を記載。

<ポイント>

- ✓ CEO、COO、CAO及び各部門の視点から見た「GIEへの変革」の進捗と現在地の整理
- ✓ 今後の更なる成長に向けて改善すべき課題や取り組むべきテーマへの言及
- ✓ 社外取締役による、将来に向けた論点や課題意識を語るメッセージ・対談の掲載

- 「LexisNexis PatentSight+ Summit 2026」※1に常務執行役員CAOの堀込が登壇。技術・ブランド・経営をつなぐ当社の知財経営について講演。

※1 レクシスネクシス・ジャパン社が主催の知財戦略カンファレンス。オンライン・会場含め1200名以上が参加

- Onitsuka Tiger類似品の製造・販売事業者に対する知財権行使に関してプレスリリース※2
知的財産権侵害に対する断固たる姿勢を広く発信し、ブランド価値とお客様の利益保護を推進。

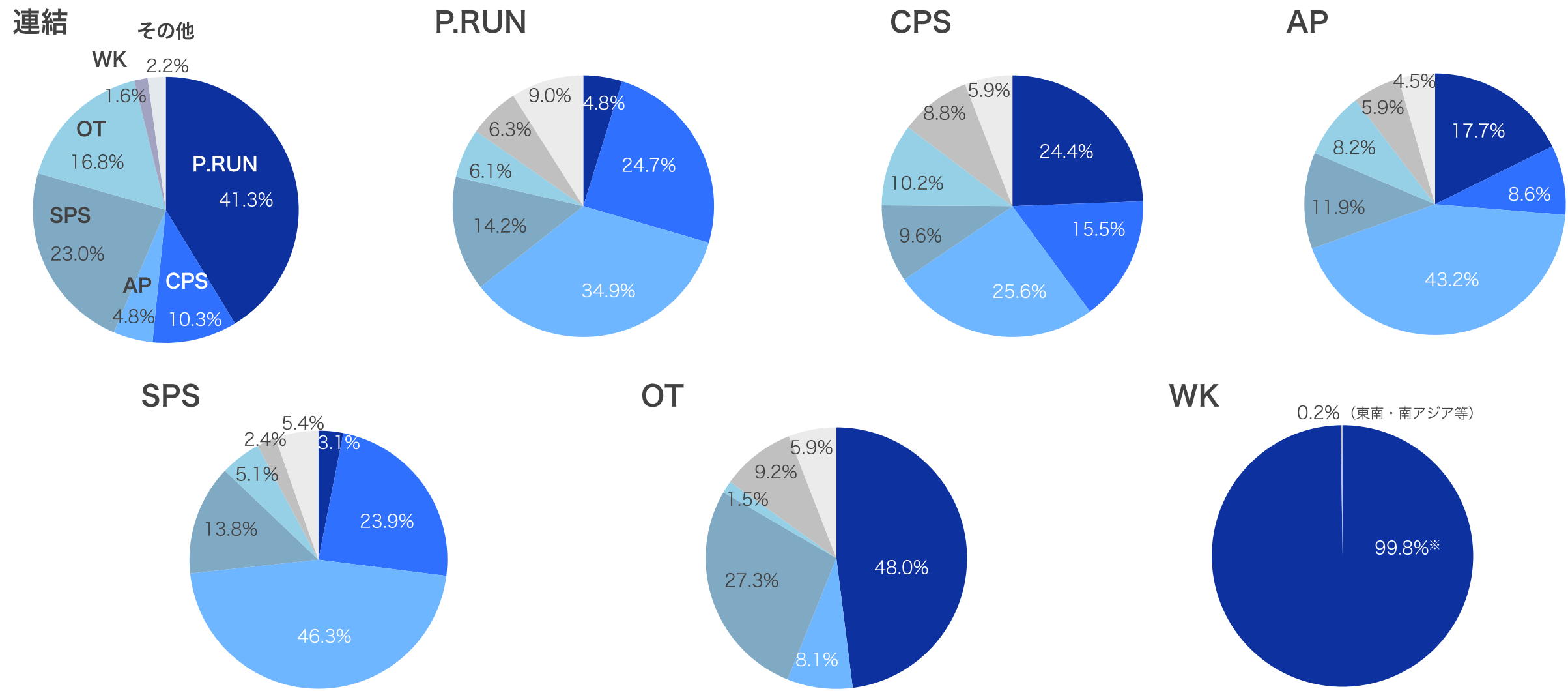
※2 https://corp.asics.com/jp/press/article/2026-06-15_infringing-onitsuka-tiger-products



カテゴリー別地域別売上高構成（2026年12月期 第2四半期）

*カテゴリー毎の地域別割合

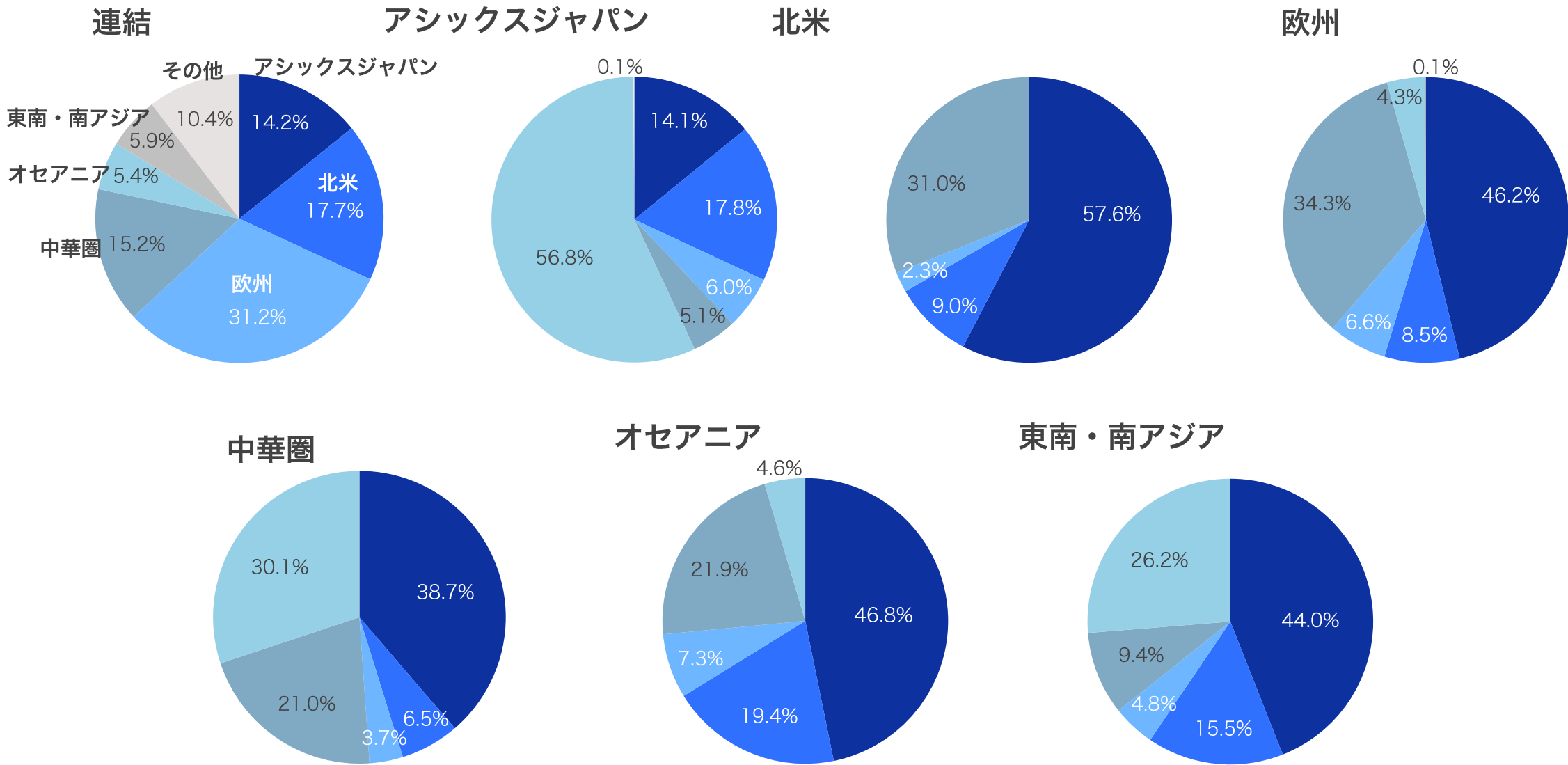
■アシックスジャパン ■北米 ■欧州 ■中華圏 ■オセアニア ■東南・南アジア ■その他



※WKにおいては日本地域の売上にて算出

主要地域別カテゴリー別売上高構成（2026年12月期 第2四半期）

*地域毎のカテゴリー別割合
 ■P.RUN ■CPS ■AP ■SPS ■OT ■その他



2026年12月期第2四半期（中間期）地域別実績

（単位：億円）

日本	FY25 (1-6月)	FY26 (1-6月)	前期比		中華圏	FY25 (1-6月)	FY26 (1-6月)	前期比	
			増減額	増減率				増減額	増減率
売上高	992	1,060	+68	+6.9%	売上高	620	810	+190	+30.7%
為替影響除く		1,060	+68	+6.9%	為替影響除く		729	+109	+17.6%
営業利益	216	285	+69	+32.2%	営業利益	149	197	+48	+32.0%
営業利益率	21.8%	27.0%	-	+5.2ppt	営業利益率	24.2%	24.4%	-	+0.2ppt
アシックスジャパン （日本地域の内数）	FY25 (1-6月)	FY26 (1-6月)	前期比		オセアニア	FY25 (1-6月)	FY26 (1-6月)	前期比	
			増減額	増減率				増減額	増減率
売上高	611	756	+145	+23.8%	売上高	214	289	+75	+35.0%
為替影響除く		756	+145	+23.8%	為替影響除く		246	+32	+15.3%
営業利益	183	252	+69	+37.7%	営業利益	33	38	+5	+14.2%
営業利益率	30.0%	33.4%	-	+3.4ppt	営業利益率	15.6%	13.2%	-	△2.4ppt
北米	FY25 (1-6月)	FY26 (1-6月)	前期比		東南・南アジア	FY25 (1-6月)	FY26 (1-6月)	前期比	
			増減額	増減率				増減額	増減率
売上高	739	946	+207	+28.1%	売上高	235	314	+79	+33.9%
為替影響除く		883	+144	+19.6%	為替影響除く		295	+60	+25.9%
営業利益	102	190	+88	+86.0%	営業利益	54	76	+22	+40.4%
営業利益率	13.9%	20.1%	-	+6.2ppt	営業利益率	23.1%	24.2%	-	+1.1ppt
欧州	FY25 (1-6月)	FY26 (1-6月)	前期比		その他地域	FY25 (1-6月)	FY26 (1-6月)	前期比	
			増減額	増減率				増減額	増減率
売上高	1,137	1,666	+529	+46.4%	売上高	246	322	+76	+30.7%
為替影響除く		1,474	+337	+29.7%	為替影響除く		289	+43	+17.5%
営業利益	212	346	+134	+63.1%	営業利益	43	56	+13	+30.0%
営業利益率	18.7%	20.8%	-	+2.1ppt	営業利益率	17.6%	17.6%	-	-

2026年12月期第2四半期（中間期・3ヶ月期間）地域別実績

(単位：億円)

日本	FY25 (4-6月)	FY26 (4-6月)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	487	468	△19	△3.9%
為替影響除く		468	△19	△3.9%
営業利益	110	140	+30	+28.6%
営業利益率	22.5%	30.1%	-	+7.6ppt

アシックスジャパン (日本地域の内数)	FY25 (4-6月)	FY26 (4-6月)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	294	370	+76	+25.8%
為替影響除く		370	+76	+25.8%
営業利益	93	130	+37	+39.6%
営業利益率	31.7%	35.2%	-	+3.5ppt

北米	FY25 (4-6月)	FY26 (4-6月)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	348	465	+117	+33.8%
為替影響除く		419	+71	+20.5%
営業利益	45	127	+82	+183.1%
営業利益率	12.9%	27.3%	-	+14.4ppt

欧州	FY25 (4-6月)	FY26 (4-6月)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	550	821	+271	+49.2%
為替影響除く		728	+178	+32.4%
営業利益	94	164	+70	+75.3%
営業利益率	17.1%	20.1%	-	+3.0ppt

中華圏	FY25 (4-6月)	FY26 (4-6月)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	330	439	+109	+32.8%
為替影響除く		381	+51	+15.6%
営業利益	82	87	+5	+6.5%
営業利益率	24.9%	19.9%	-	△5.0ppt

オセアニア	FY25 (4-6月)	FY26 (4-6月)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	90	130	+40	+45.6%
為替影響除く		107	+17	+19.3%
営業利益	11	15	+4	+28.0%
営業利益率	12.7%	11.2%	-	△1.5ppt

東南・南アジア	FY25 (4-6月)	FY26 (4-6月)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	110	146	+36	+33.2%
為替影響除く		134	+24	+22.6%
営業利益	24	32	+8	+34.2%
営業利益率	21.6%	21.8%	-	+0.2ppt

その他地域	FY25 (4-6月)	FY26 (4-6月)	前期比	
			増減額	増減率
売上高	117	163	+46	+38.6%
為替影響除く		143	+26	+22.0%
営業利益	20	27	+7	+35.2%
営業利益率	16.8%	16.4%	-	△0.4ppt

2026年度 通期業績予想：カテゴリー別

(単位：億円)		FY25 実績	FY26 今回予想	増減率	為替影響を除く 増減率
P.RUN	売上高	3,635	4,270	+17.5%	+10.0%
	カテゴリー利益	860	1,070	+24.4%	+18.1%
	カテゴリー利益率	23.7%	25.1%	+1.4ppt	-
CPS	売上高	860	1,050	+22.1%	+16.1%
	カテゴリー利益	167	220	+31.2%	+25.4%
	カテゴリー利益率	19.5%	21.0%	+1.5ppt	-
AP	売上高	420	530	+26.0%	+19.0%
	カテゴリー利益	59	85	+43.1%	+33.7%
	カテゴリー利益率	14.1%	16.0%	+1.9ppt	-
SPS	売上高	1,413	2,420	+71.2%	+60.9%
	カテゴリー利益	413	760	+83.8%	+74.3%
	カテゴリー利益率	29.3%	31.4%	+2.1ppt	-
OT	売上高	1,365	1,800	+31.8%	+27.9%
	カテゴリー利益	514	630	+22.4%	+19.9%
	カテゴリー利益率	37.7%	35.0%	△2.7ppt	-
WK	売上高	164	158	△3.9%	△4.0%
	カテゴリー利益	18	23	+26.0%	+25.7%
	カテゴリー利益率	11.1%	14.6%	+3.5ppt	-

2026年度 通期業績予想：地域別

(単位：億円)		FY25 実績	FY26 今回予想	増減率	為替影響を除く 増減率
日本 地域 ※	売上高	2,042	2,000	△2.1%	△2.1%
	営業利益	447	520	+16.2%	+16.2%
	営業利益率	21.9%	26.0%	+4.1ppt	-
うち、アシックスジャパン	売上高	1,272	1,580	+24.1%	+24.1%
	営業利益	381	500	+31.0%	+31.0%
	営業利益率	30.0%	31.6%	+1.6ppt	-
北米 地域	売上高	1,411	1,820	+28.9%	+20.7%
	営業利益	160	270	+68.6%	+58.7%
	営業利益率	11.3%	14.8%	+3.5ppt	-
欧州 地域	売上高	2,258	3,140	+39.1%	+31.3%
	営業利益	367	580	+57.8%	+48.8%
	営業利益率	16.3%	18.5%	+2.2ppt	-
中華圏 地域	売上高	1,205	1,540	+27.8%	+17.5%
	営業利益	250	330	+31.5%	+21.7%
	営業利益率	20.8%	21.4%	+0.6ppt	-
オセアニア 地域	売上高	496	640	+28.9%	+13.2%
	営業利益	79	110	+38.8%	+21.4%
	営業利益率	16.0%	17.2%	+1.2ppt	-
東南・南アジア 地域	売上高	497	660	+32.6%	+28.1%
	営業利益	109	145	+32.5%	+28.4%
	営業利益率	22.0%	22.0%	±0.0ppt	-

※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社も含まれております。他の地域との比較可能性を考え、アシックスジャパンを日本地域の内訳として記載しております。
 なお、日本地域には、アシックスジャパン、アシックス商事、ニシスポーツなどの会社を含みます。

2026年度 通期業績予想：カテゴリー別

(単位：億円)		FY26 前回予想	FY26 今回予想	増減率	為替影響を除く 増減率
P.RUN	売上高	4,150	4,270	+2.9%	△3.2%
	カテゴリー利益	1,040	1,070	+2.9%	△2.0%
	カテゴリー利益率	25.1%	25.1%	±0.0ppt	-
CPS	売上高	980	1,050	+7.1%	+2.3%
	カテゴリー利益	190	220	+15.8%	+11.1%
	カテゴリー利益率	19.4%	21.0%	+1.6ppt	-
AP	売上高	480	530	+10.4%	+4.6%
	カテゴリー利益	70	85	+21.4%	+13.6%
	カテゴリー利益率	14.6%	16.0%	+1.4ppt	-
SPS	売上高	2,050	2,420	+18.0%	+11.4%
	カテゴリー利益	600	760	+26.7%	+20.5%
	カテゴリー利益率	29.3%	31.4%	+2.1ppt	-
OT	売上高	1,520	1,800	+18.4%	+14.9%
	カテゴリー利益	540	630	+16.7%	+14.3%
	カテゴリー利益率	35.5%	35.0%	△0.5ppt	-
WK	売上高	162	158	△2.5%	△2.5%
	カテゴリー利益	22	23	+4.5%	+4.3%
	カテゴリー利益率	13.6%	14.6%	+1.0ppt	-

2026年度 通期業績予想：地域別

(単位：億円)		FY26 前回予想	FY26 今回予想	増減率	為替影響を除く 増減率
日本 地域 ※	売上高	1,800	2,000	+11.1%	+11.1%
	営業利益	450	520	+15.6%	+15.6%
	営業利益率	25.0%	26.0%	+1.0ppt	-
うち、アシックスジャパン	売上高	1,380	1,580	+14.5%	+14.5%
	営業利益	430	500	+16.3%	+16.3%
	営業利益率	31.2%	31.6%	+0.4ppt	-
北米 地域	売上高	1,680	1,820	+8.3%	+1.9%
	営業利益	180	270	+50.0%	+42.3%
	営業利益率	10.7%	14.8%	+4.1ppt	-
欧州 地域	売上高	2,810	3,140	+11.7%	+5.5%
	営業利益	520	580	+11.5%	+5.0%
	営業利益率	18.5%	18.5%	±0.0ppt	-
中華圏 地域	売上高	1,400	1,540	+10.0%	+0.5%
	営業利益	300	330	+10.0%	+1.3%
	営業利益率	21.4%	21.4%	±0.0ppt	-
オセアニア 地域	売上高	580	640	+10.3%	+0.2%
	営業利益	100	110	+10.0%	-
	営業利益率	17.2%	17.2%	±0.0ppt	-
東南・南アジア 地域	売上高	590	660	+11.9%	+5.8%
	営業利益	130	145	+11.5%	+5.8%
	営業利益率	22.0%	22.0%	±0.0ppt	-

※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社も含まれております。他の地域との比較可能性を考え、アシックスジャパンを日本地域の内訳として記載しております。
 なお、日本地域には、アシックスジャパン、アシックス商事、ニシスポーツなどの会社を含みます。

株価及び指標の推移

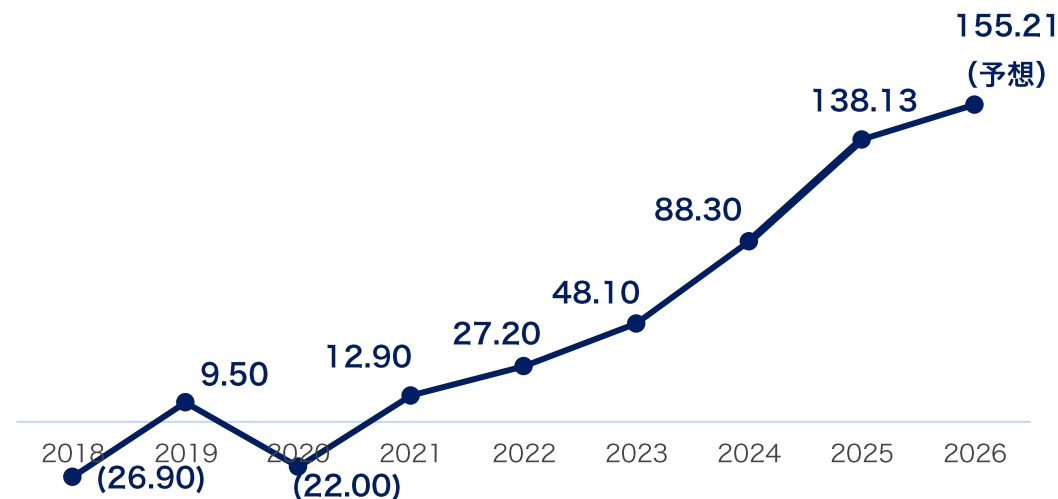
■ 株価推移 2018年初 - 2026年7月31日



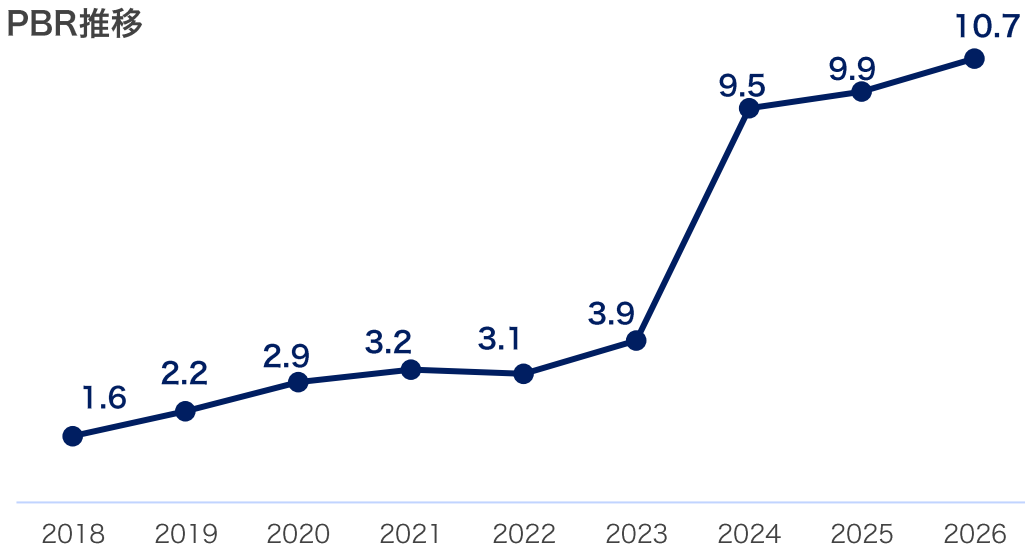
※2018年初を100として標準化

出所：ブルームバーク

■ EPS推移



■ PBR推移



※ 7月31日時点

出所：ブルームバーク



DISCLAIMER 将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみに全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。